

平成 30 年度号 No.38 平成 30. 6. 5 発行
〒275-8511 千葉県習志野市泉町 2-1-37
東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓会
TEL/FAX 047-472-1160
URL <http://www.shiseinin.org/>
E-mail shiseinin@yahoo.co.jp

目 次

- 同窓会総会開催案内…………… 1
- 会長あいさつ…………… 2
- 学校法人理事長あいさつ…………… 3
- 学校長あいさつ…………… 4
- 金井宇宙飛行士プロジェクト報告… 5
- 同窓会のこの1年…………… 8
- 特別寄稿…………… 13
- 同窓生のページ…………… 22
- 学校の近況…………… 27
- 平成 30 年度入試報告 …… 34
- 新入会員を迎えて…………… 36



題字：創立者 額田 晋先生 書

同窓会総会開催案内

日時 平成三十年七月八日(日)

受付開始 十一時半

総会開始 十二時

(会場 蓬来)

懇親会スタート 十三時

(会場 龍田)

会場 東武ホテルレバント東京

議案 ・平成二十九年事業報告

・平成二十九年度会計報告

・平成三十年度事業計画案

・平成三十年度予算案

・その他

学校の近況報告

・東邦中学・高等学校入学をとりまく状況

・大学進学状況に関して

・その他

※先生方からご説明を頂きます。

懇親会 総会終了後、懇親会を行います。

会費は、正会員五千円とし平成三十年

三月卒業の新会員はご招待とさせて頂きま

す。高校卒業4年目までの会員は会費を千

円とさせて頂きます。

なお、会場内での喫煙、未成年者の飲酒

はできません。

☆出欠のハガキは六月二十九日(金)必着。

FAXでの回答はご遠慮下さい。

☆電話 ○四七-四七二-一六〇

学校法人 東邦大学 理事長 炭山嘉伸 著

『東邦大学のルーツをたどる』

を同窓会事業として母校生徒に寄贈します

東邦中・高等学校同窓会「自生人」会長 鮎川 二郎（七期卒・千葉商科大学名誉教授）



一・はじめに

母校である高校は一九五二（昭和二十七年）に、中学は一九六二（昭和三十一年）にそれぞれ創設され、一九五五（昭和三十一年）年には高校第一期卒業生を世に送り出しています。以来、今年で第六十四期生が卒業し、同窓生総数が二二、六三三名となりました。高校創設以来これまで六十六年が経ちましたが同窓生の皆様におかれましては全国各地のさまざまな分野にて活躍のことと心からお慶び申し上げます。

現同窓会は、一九九七（平成九年）九月十五日の定例総会を機に新体制にて再スタートして以来、学校法人・母校と父母会の習志会との三位一体の関係を維持しながら順調に活動を続け、相互協力して母校の発展に寄与し得る様な健全な同窓会を築いていくことを実践してきています。

この間、二〇〇二（平成十四）年に東邦中学・高等学校創立四十・五十周年記念を迎えたことから、法人関係機関のさらなる発展とそこで働く人々や生徒に建学の精神を今一度広く知っていただく一助とするべく、同窓会事業として学校法人や額田家のご同意を得て、復刻本として刊行し、「自然・生命・人間」の版權を同窓会が担い、同書は毎年の中高新入生全員と新任教員用に寄贈させて頂きました。現在は同書の版權を学校法人が所持してくださるオール東邦学園にまで広く配布いただいております。

二〇〇八（平成二十）年には、母校の創設者額田晋先生が生涯をかけて「人が力強く生きる道」を問

い明かした「自然・生命・人間」の著書「自然・生命・人間」の各頭文字を採りいれて、同窓会の呼称を「自生人」といたしました。

二〇一六年（平成二十八年）に創立六十周年を迎え、記念事業として母校に末永く残る記念品として「校章の桜花銘板」を本館正面に設置させていただきました。

二・同窓会の新事業として「東邦大学のルーツをたどる」を母校・生徒に寄贈します

我が東邦中学高等学校の生みの母である東邦大学の現在の第九代理事長炭山嘉伸先生が大学創立九十年記念を契機に高貴な伝統の足跡を「東邦大学のルーツをたどる」第一部、第二部に纏められました（第一部は平成二十四年六月号・平成二十七年四月号『学校法人東邦大学広報』に掲載、第二部は平成二十九年一月号・平成三十年四月号『学校法人東邦大学広報』に掲載されました）。

同著書は、東邦大学の創立者である額田豊先生、晋先生とは、いったいどんな人物だったのでしょうか。なぜ、女子の医学専門学校を作ろうと構想されたのでしょうか。今一度、創設と発展に尽くされた両先生の足跡をたどり、私たちが今後歩むべき道をより明らかなものにしていきたいという炭山嘉伸先生の思いから、二〇一二年六月より法人経営トップの激務職にも拘わりませず長い年月を経て纏められたもので東邦大学全関係者や卒業生にとっては貴重な宝物となりました。

同著の第一部は、既に東邦大学医学部同窓会東邦会により製本し、全学同窓会（医学部東邦会、薬学部鶴風会、理学部鶴風会、看護学部同窓会、駒場東邦中高等学校同窓会、東邦中高等学校同窓会自生人）の各同窓会より本年三月の各卒業生に記念品として

寄贈いたしました。

その後、炭山嘉伸先生著の第二部が平成三十年一月号・四月号『学校法人東邦大学広報』に掲載されましたので、本同窓会自生人では独自の事業として今年から同著の第一部と第二部を合本した「東邦大学のルーツをたどる」を新たなデザインで製本し、毎年の新入生に入学祝いとして寄贈する計画を進めたいことを炭山先生にご相談しました。幸いにして法人から本同窓会への版權許可をいただきましたので、今年からの新入生に対し入学祝いとして寄贈させていただきます。この機会に母校への新入生には是非とも同著書を熟読していただき、著者の思いと大学の創設者をはじめ発展に貢献されてきた多くの方々の足跡を読み取っていただき、中高六年間の学園生活を通して確かな東邦帰属意識を培い、熱く胸中に刻みながら過ごしていただき、卒業後もそれぞれの進路に向かって誇りを持って人生を切り開いて行く一助となつていただければ同窓会自生人といったしましても誠に意義深い事業ともなり望外の喜びとするところです。

三・結び

本同窓会「自生人」は、いうまでもなく学校法人東邦学園の建学の精神・教育理念を尊び相互理解のもとで役員一丸となつて会務を運営しています。

今回の宝物著書「東邦大学のルーツをたどる」第一部、第二部の合本製作新事業の推進を契機に、今後は同窓会員の皆様にもご希望に応じては別途方法にてお届けできる手段を検討しています。同書入手のご希望の会員は同窓会事務局までお問い合わせください。

結びに、会員の皆様におかれましては同窓会事業へのより一層の参加と連携・協働を賜りますようお願い申し上げます。



ご挨拶

学校法人東邦大学 理事長 炭山 嘉伸



東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓会会報発行にあたり、今年も皆様にご挨拶申し上げます。日ごろ、同窓会会長鮎川二郎先生をはじめ、皆様におかれましては、学校法人東邦大学のためにご支援をいただいておりますことに御礼申し上げます。

本年二月十六日、卒業生である金井宣茂宇宙飛行士を応援するイベントが開催されました。あいにく、金井宇宙飛行士とのリアルタイム交信は中止となりましたが、宇宙飛行士の山崎直子氏や、国立極地研究所の本吉洋一氏、日本宇宙フォーラムの浅田正一郎氏のご講演を、小中高校生やその保護者の皆様など約一、五〇〇名の方々と共に聞くことができました。多くの子供たちが、夢を持つことができました。多くの子供たちが、夢を持つことの大切さを学び、科学への興味が増したことを思います。また、四月六日には、リアルタイム交信イベントが無事行われた旨の報告をいただきました。イベントへの支援・準備をされた関係者の皆様へ、この場を借りて御礼申し上げます。この宇宙教育プロジェクトについては、法人としても、引き続き推進いたします。金井宇宙飛行士のミッションが成功し、無事帰還されることを祈り、応援いたします。

さて、学校法人の平成三十年度事業計画は、三月二十三日に開催した理事会・評議員会で報告済みですが、同窓会の皆様へも、その一部をご報告いたします。

平成三十年六月二十日、本法人創立九十周年記念事業の集大成である新大橋病院が、いよいよ開院いたします。新病院は一床当りの面積が二・六倍広くなり、アメニティが向上し、ゆとりある土地に「水と緑に囲まれた病院」を具現化した都市型モデル病院として新たなスタートをきります。本法人の帰属収入の七十五％は医療収入であり、新病院のスムーズな船出と今後の病院経営は、本法人の将来を担っていると考えますが、現在の医療体制にあった高機能・高稼働の病院として地域の患者さんを含め、母校を愛する皆様、そして、本法人の全てのステークホルダーの期待に応えられる病院となることを確信しております。

また、付属東邦中学校高等学校隣接地の習志野キャンパスは、昨年の健康科学部開設で、自然科学総合大学として更に充実し、特色ある活気にみちたキャンパスに進化しております。教学環境の整ったキャンパスにおいて、より一層優秀な教育ができることを期待しています。平成二十九年には、付属東邦中学校高等学校の中高一貫教育がスタートいたしました。もともと建学の精神を重視し、文武両道を重視したリベラルアーツ型の教育を実施している付属中学校高等学校です。この中高一貫教育が、必ずや教育効果向上にも繋がることと思います。教職員の皆様におかれましては、六年間を視野に入れた人間教育に力を注いでいただき、感謝申し上げます。

東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓会の皆様におかれましては、引き続き、六年間一貫教育へのご支援と共に、本法人に対するご支援をお願いし、私のメッセージとさせていただきます。

コミュニケーションマーク



東邦大学

このマークは、東邦が大切にしている価値観を「象徴化」したもので、今後の東邦ブランディングの視覚的表現の核となるものです。東邦に流れ続けてきた価値観、これから大切に引き継ぎ伝えていくべき価値観に学祖の思想「自然・生命・人間」があります。「自然・生命・人間」を象徴する12のアイコンによって構成される本コミュニケーションマークは、2007年4月より導入され、様々なコミュニケーション活動において展開されていきます。



東邦大学 医療センター 大橋病院 (6月20日開院)

ご 挨拶

東邦大学付属東邦中学高等学校 校長 松 本 琢 司



同窓会の皆様方には、日頃より本校の教育活動に深いご理解とご支援を賜りまして、心から感謝申し上げます。

特に、関東大会・全国大会出場の一部活動に對して、ご支援いただきましてありがとうございます。会報の他のページにありますように、お礼の気持ちを込めて、部員たちが活動報告してくれています。また、昨年度は金井宇宙飛行士関連のイベントに際しまして、多大なご支援をいただきまして誠にありがとうございます。

昨年の総会以降の学校の近況をご紹介します。ご挨拶に代えさせていただきますと思います。

中高入試

中学入試は、従来の前期入試・後期入試に加えて、十二月に推薦入試（自己推薦による第一志望入試）を昨年より導入しております。二年目の今年も多くの応募があり大変な高倍率となりました。三回の入試を経て、中学は三〇〇名の定員に対して、三四三名の入学者がありました。

高校入試の方は、平成二十九年度より高校募集を停止したため、昨年から一般入試は

行っておりません。それに伴い帰国生入試を実施しておりますが、今年は二名が入学しました。付属中学からは二八二名が高校に入学しましたので、合計二八四名で高校一年はスタートしております。

また、中高完全一貫生が高校二年生になり、文理別のクラス編成になりました。文理の進路選択を明確にする時期が少し早まりましたので、中学二年・三年の三学期の職業講話などを参考に、進路選択を行っております。そのような進路選択に関しては、職業講話や進路ガイダンスの折りに、卒業生の方々には講師としてご協力をいただいております。大変感謝しております。後輩に向けた貴重なお話をありがとうございます。

大学入試結果

進路指導部から詳細は報告がありますが、今春の卒業生の進学実績については、上位層の実績は良好でした。また、医学部医学科の合格者が現浪合わせて百人に達したのは、本校としてははじめてのことであり特筆すべきことです。

国際交流

他校に比べて遅れをとっていた感のある国際交流の面も充実をはかり、中高生のうちにさまざまな国際交流に関する体験を積み重ね

を、設置五年目を迎える国際交流室を中心に増やしております。

本校主催の海外研修は従来の高校一年時のオーストラリア研修（希望者全員参加）は、実施時期を中三に移して二年目を迎えます。このオーストラリア研修には、今年からサイエンス・コースが加わります。これはクイーンズランド大学の研究施設や野生動物保護施設での実習、世界自然遺産の探訪、ファームステイなど、本校ならではの海外研修です。

同じく希望者対象ですが、今年の春休みに中学三年と高校一年のシンガポール研修を昨年に続いて二回目を実施しました。これは現地のインターナショナルスクールで寮生活を送りながら、その学校の授業に参加し、すべて英語でさまざまな科目の授業を受けるといえるものです。シンガポール国立大学や世界遺産マラッカの見学も行いました。

一昨年、オーストラリアのブリスベンにあるセント・ピーターズ・ルーサラン（ルーテラン）・カレッジと姉妹校提携を結びました。オーストラリア研修の際に交流会を行ったりもしておりますが、スポーツや文化の面でも交流を深めたいと考え、春休みには東邦中学サッカー部が親善交流に行っていました。

また、国内にいながらにして国際交流をはかり、英語のプレゼン能力を高めるプログラムが、ハーバード大学から八名の学生を本校に招いて八月に実施される予定です。

東邦スペースイヤー

東邦中高の平成六年度卒業生の宇宙飛行士金井宣茂さんが、国際宇宙ステーションに

半年間滞在することに関連して、昨年度の一年間は「東邦スペースイヤー」とし、宇宙に関する講演、ソユーズ打ち上げライブ（十二月十七日）、国際宇宙ステーション滞在時のリアルタイム交信（四月六日）などを、習志野市・市川市と共同で主催しました。中でも、交信イベントに対して、冒頭でも申し上げましたが、同窓会より多大なるご支援をいただきましたことに、重ねて御礼申し上げます。お陰様で、本校生をはじめ市内・県内の多くの小中学生に、宇宙や科学への興味・関心を広げたり深めたりすることができて、とても喜んでいただくことができました。また、テレビや新聞でこれらのイベントがたびたび報道されたこともうれしく思っております。

在校生の活躍

高校二年生（当時）の女子三名が三月に行われた囲碁全国選抜大会において、団体戦全国四位という快挙をなしとげました。また、新高二・三生の十名が、他校生五名とチーム（サクラ・テンペスタ）を編成して、EJRS（ロボティクス・コンペティションの地区大会（ホノルル開催）を経て、四月に行われた世界大会（デトロイト開催）に日本からはじめて出場を果たし、ルーキー・インスピレーション賞を受けました。

最後になりましたが、卒業生の皆様方の益々のご活躍と同窓会のご発展をお祈り致します。



中学校サッカー部 オーストラリア親善交流 H30.3.27

金井宇宙飛行士 プロジェクト報告

本校OBである金井宣茂JAXA宇宙飛行士（平成六卒）がISS（国際宇宙ステーション）に長期滞在することが発表され、この機会を最大限活用すべく始動したプロジェクトがいわゆる「金井プロジェクト」です。なぜ、「宇宙」について特別にプロジェクトを行うのか。それは、宇宙開発は高度な先端技術が詰まっており、学べべきものが多いことに加えて、子どもだけでなく多くの世代に夢を与え、関心を集めるきっかけとなる高い領域であると認識できるからです。また、このプロジェクトを通して、自然と宇宙と生命の尊さを知ることにより、人材育成・人格形成につながることを期待しているからです。

宇宙との交信をライブで行う事（以下、「交信イベント」）。これが最大のイベントであると捉え、実現すべく歩み出したのが、二年前。この年の年度当初から夏までは、同じ立場を経験された学校を調査することからはじめました。星出宇宙飛行士の出身校である茗溪学園や大西宇宙飛行士の出身校である聖光学院等に聞き取り調査を行い、学校としていかに交信イベントに取り組むか、JAXAとの付き合い方、学校組織の作り方など多岐にわたりじっくりと話を聞きました。そして、交信イベントがJAXAによる審査を経て決められるもので、その審査にパスす

るには、高いハードルがあることが知らされました。特に、聖光学院の場合、大西宇宙飛行士の交信イベントに応募したものの落選されたようで、このときの経験談を聞く限り、たとえ出身校としてのアドバンテージがあったとしても、ある一つの学校の生徒のみを対象として開催することはJAXAが政府機関との関係性が強く、公的な立場の機関ゆえに受け入れてもらえないとのことを知り、危機感や緊張感が一気に高まったことを覚えています。

JAXAにも調査を行いました。当初は面談叶わず電話での調査でしたが、丁寧に應對していただき「どうすれば審査に通るやくなるか」という点を中心に話しました。広域性の確保と付随する他のイベントの内容あたりがポイントであることをうかがいました。

ここで、広域的な組織化が必要となったわけですが、我々がその形を作るときにモデルとしたのが隣接五市との共同事業として行われた国分寺市や油井宇宙飛行士の出身地で小中学校を中心として村をあげて行われた川上村の交信イベントです。この二つの事例を調査する過程で出会ったのが日本宇宙フォーラムでした。日本宇宙フォーラムは、宇宙に関する様々なイベントを企画運営している企業体で宇宙教育にも深く関わっている組織です。JAXAとも関係が深く、JAXAと日本宇宙フォーラムは兄弟のような関係があるそうです。早速、日本宇宙フォーラムに話しをしてみると、予想以上のノウハウを持ち、我々と接していただけました。そしてアドバイザーとしてお願い

するに至りました。

さらに、金井氏の出身小学校がある市川市、東邦中高が所在する習志野市に声をかけさせていただき共催として共同事業をお願いし、後援として千葉県、千葉県教育委員会、千葉工業大学、東邦大学にお願いして、いわゆる「金井宣茂宇宙飛行士プロジェクト実行委員会」が立ち上がったのはおよそ一年前のことです。

市川市・習志野市・東邦中高の三者で組織化したこの実行委員会は、「共同事業」とそれぞれ三者が個別に展開する「個別事業」を認めました。従って、本校でも「共同事業」と東邦独自の「個別事業」が混在して展開しました。「共同事業」は計六回にわたり行いました。第四回目を除き、すべて本校での開催です。回を重ねるごとに関心も高まり、第一回目が一〇〇名足らずだったものが、五・六回目交信イベントでは二〇〇名を超える応募者がありました。六回も行っているという「ドラマ」があるものです。第四回ではたいへん著名な村山斉先生の講演会を企画していたその日に金井氏の打ち上げ日がたまたま重なり、参加された方はたいへんラッキーなおもいをされたはずです。このとき、主要なテレビ局や新聞社が取材に駆けつけ、たいへん盛り上がりしました。これに対し、交信イベントはアンラッキーでした。交信イベントは当初二月十六日に行う事が決定し、充分な準備を重ね高揚感も高まっていたのですが、開催三日前になってISSへの補給船であるプログレス（ロシア）の打ち上げ日程が変更になり、これが影響して金井氏本人のミッションが変わ

り、交信イベントは延期になりました。ただ、交信イベントを予定していた時間のミッション内容は船外活動となったため、日本人四人目の船外活動の様子を、それも山崎直子氏と寺門和夫氏の豪華な解説つきで視聴でき、救われたおもいをしました。

結果的に、交信イベントは年度またいだ四月六日の夜間に行われました。年度を越し、また同日が始業式、次の日が入学式という慌ただしい状況の中、交信イベントは実行されました。交信イベントはかつての宇宙飛行士の時代を含め今まで何十回と行われていると聞いていますが、これまでにない試みとしてできる限り大人を排除して子どもだけで交信を行いました。

交信イベントについて事後の参加者アンケートを実施しました。参加された方ほぼすべての方が満足され、また、イベントを通して何かを感じ取っていただけたことを実感しました。かつてない大きなイベントとなりましたが、しかしながら、本校が大切にしている「学びは机上だけではない」とする「多面的な学びの精神」について改めて感じ取れる良い機会になったと思います。

さて、今後もちろん「宇宙」に関するプロジェクトは継続されます。今後展開される企画が、引き続き豊かな人間性と知性を兼ね備えた、未来を担う東邦生の育成の一助となればと願っております。

文責 北村 章（プロジェクト委員）



第 1 回	平成 29 年 8 月 7 日	【東邦大学×千葉工業大学コラボ企画】 和田豊氏（千葉工業大学工学部 機械電子創成工学科 准教授）講演会 北山哲氏（東邦大学理学部物理学科 教授）講演会
第 2 回	平成 29 年 9 月 17 日	秋山豊寛氏（元宇宙飛行士）講演会
第 3 回	平成 29 年 11 月 26 日	羽村太雅氏（国立天文台 天文情報センター普及室）講演会 渡辺勝巳氏（元 JAXA 宇宙教育推進室 室長）講演会
第 4 回	平成 29 年 12 月 17 日	村山斉氏（東京大学国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構 機構長）講演会 ＋打ち上げライブ中継（解説 寺門和夫氏：科学ジャーナリスト）
第 5 回	平成 30 年 2 月 16 日	【ISS リアルタイム交信イベント①】 ※ISS リアルタイム交信イベント自体は 4/6 に延期。 山崎直子氏（元宇宙飛行士）講演会 本吉洋一氏（国立極地研究所）講演会 浅田正一郎氏（日本宇宙フォーラム）講演会 ＋船外活動ライブ中継（解説 山崎直子氏＋寺門和夫氏）
第 6 回	平成 30 年 4 月 6 日	【ISS リアルタイム交信イベント②】 宮本英昭氏（東京大学大学院工学系研究科）講演会 ＋ISS リアルタイム交信イベント



「夢と冒険心で、未来を拓け！」

国際宇宙ステーション (ISS) リアルタイム交信イベント

2018. 2/16 (金)
19:00-22:00 (予定) 18:00開場

東邦大学付属東邦中学校 第1体育館 全席無料 事前申込制

第1部では、「未知なる世界へ大冒険」をテーマに、自らの夢を實現し、未来人が簡単に往くことのできる宇宙空間や地球の極地で活躍されている山崎直子さん(宇宙飛行士)、浅田正一郎さん(日本宇宙フォーラム常務理事)、本吉洋一さん(国立極地研究所常務所長)をお招きし、講演会を開催します。

第2部では、JAXAの宇宙教育推進部が所管する国際宇宙ステーション(ISS)と地上をつないで交信イベントを実施します。(交信は15分～20分程度を予定しています。)

交信イベントは、ISSの乗組員により事前の事前申込が必要となります。

【「未知なる世界へ大冒険」】

- 講演者：山崎直子さん(宇宙飛行士)
- 講演者：浅田正一郎さん(日本宇宙フォーラム常務理事)
- 講演者：本吉洋一さん(国立極地研究所常務所長)

【「ハロー！アストロノーツ」】

- 講演者：山崎直子さん、浅田正一郎さん、本吉洋一さん

応募フォームより、ご応募ください。(抽選)

https://www.science-event.jp/event/iss_chiba/

※本イベントは、JAXAの宇宙教育推進部が所管する国際宇宙ステーション(ISS)と地上をつないで交信イベントを実施します。交信は15分～20分程度を予定しています。交信イベントは、ISSの乗組員により事前の事前申込が必要となります。

※本イベントは、JAXAの宇宙教育推進部が所管する国際宇宙ステーション(ISS)と地上をつないで交信イベントを実施します。交信は15分～20分程度を予定しています。交信イベントは、ISSの乗組員により事前の事前申込が必要となります。



同窓会のこの一年

同窓会副会長 渡 邊 和 彦 (二十期生 歯科医院経営)

同窓会活動のこの一年(平成二十九年七月～平成三十年六月)を簡単に報告させていただきます。

同窓会会報「ならしの」

第三十七号の発行

例年通り、定例総会の開催に合わせ同窓会会報「ならしの」第三十七号を発行致しました。

同窓会総会・懇親会

平成二十九年七月九日、ホテル「ザ・マンハッタン」幕張新都心にて開催いたしました。

議事は、会報「ならしの」第三十七号に提示された議案を中心に予定通り進められ、決算報告、事業報告、予算案、事業計画案等、すべて承認されました。

総会に続いて行われた懇親会には、学校法人東邦大学理事長炭山嘉伸先生や母校の先生方をお招きし、総会に参加できなかった新会員も加わりました。世代を越えた親睦の場として、情報交換の場として、有意義な集いが実現できたと思います。



■ 母校卒業式に向けての取り組み

一・卒業記念品の贈呈

卒業を祝し、例年通り、ペン型印鑑と「鮎川会長デザイン特製ペーパーバッグ」を卒業生全員に贈呈しました。

二・臨時会報の発行

今年度も新入会員に対して、「臨時会報」を作成・配布致しました。会報には、同窓会組織・規約の説明、高校卒業生への祝詞と激励などを盛り込みました。



三・同窓会入会式

三月二日（卒業式前日）、母校体育館で同窓会入会式が行われ、同窓会執行部を代表して御喜和理事（十八期生 母校教諭）が歓迎の挨拶をしました。

四・卒業式への参加

三月三日、母校体育館で卒業式（卒業生三五八名）が挙行され、渡邊学副会長が同窓会を代表して、来賓祝辞を述べました。



■ 会報「ならしの」第三十八号発行
(平成三十年六月五日)

■ 母校教育活動への支援

一・同窓会アワード

(母校生徒への報奨制度)

規定に従い、次の部活に報奨金を贈呈しました。(学校の近況のページに関連記事があります。)

- 中学校スキー部 (関東大会出場 全国大会出場)

- 高校スキー部 (関東大会出場 全国大会出場)
※関東大会において、男子リレーで優勝
- 高校硬式テニス部 (関東大会出場)
- 中学男子ハンドボール部 (関東大会出場)
- 囲碁(有志) (全国大会団体戦四位入賞)

二・国際交流教育支援

母校では、国際交流に関する教育の推進を目的として平成二十六年度に国際交流室が設置されました。母校の取り組みの一助となることを願い、昨年度に続き支援金を贈呈しました。(二十九ページに国際交流室からの報告記事が掲載されています。)

三・金井宇宙飛行士プロジェクトへの支援

支援金として一〇〇万円を寄付。「打上げイベント」、「リアルタイム交信イベント」等には同窓会役員も臨席いたしました。

同窓会事務局からのお知らせ

一・同窓会報の発行・配布に関して

今後、同窓会報は、原則として同窓会ホームページで閲覧していただくこととなります。このことに伴いまして、ホームページ閲覧用のIDとパスワードをお知らせします。

URL <http://www.shiseinin.org/>

E-mail shiseinin@yahoo.co.jp

今後、引き続き、同窓会報の送付を希望される方は、同封の返信はがきでご回答をお願いします。

二・同窓会の各学年幹事について

同窓会の各学年幹事に自ら立候補を希望される方、または推薦者がいらっしゃいましたら、同窓会事務局まで文書またはメールでご連絡ください。

幹事の職務は、同窓会会員相互の交流促進、同窓会本部と各学年会員との連絡・交流等です。

三・同窓会ホームページと新サービスシステムについて

同窓会本部では、同窓会活動充実のための取り組みの一環として、標記の件につきまして準備を進めて参りました。当会報十一ページ、十二ページに詳しい説明がございますので、ご覧ください。なお、不明な点等ございましたら、同窓会事務局にお問い合わせください。

同窓会活動への寄付協力をお願い

平成二十一年度の同窓会総会で決定しました通り、二十二年度より会員の皆様に寄付の協力

をお願いしています。要領は左記の通りです。ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

記

・寄付金は、一口二、〇〇〇円、二口以上とする。
・振込先 千葉銀行 船橋支店 店番号015
普通口座 3353747
口座名 東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓会
(トウホウダイガクフゾクトウホ
ウチュウガッコウ)

※寄付協力は会員の自由意志によるものです。
ご質問、ご意見などございましたら、同窓会事務局に連絡してください。

寄付のご協力を頂いた方をご紹介します。
ありがとうございます。

吉永 茂 様	二期
齋藤 正義 様	十三期
小林 広次 様	二十期

現同窓会役員の紹介

鮎川 二郎	七期	会長	大学教授
渡邊 和彦	二十期	副会長	歯科医
渡邊 学	三十一期	副会長	医師
原 茂樹	八期	理事	会社役員
能勢 英雄	十四期	理事	元地方公務員
岡田久仁子	十五期	理事	会社役員
秋元 保次	十六期	理事	会社経営
藤内 圭一	十八期	理事	歯科医
手塚 幹子	十八期	理事	薬剤師
御喜 和	十八期	理事	母校教諭

同窓会事務局より

事務局担当理事 岡田 隆治
(36期生 母校教員)

(1) パート事務員の方の同窓会事務室での執務時間

水曜日 9:30～14:30 土曜日 9:30～14:30
同窓会へのお問い合わせは、なるべくこの時間帯にお願いします
直通電話 047-472-1160 *FAX 番号は電話番号と同じです

(2) 緊急の連絡に関して

上記の執務時間以外は、同窓会室への電話連絡はできません
緊急のお問い合わせは学校代表 047-472-8191 にお電話いただき、
「同窓会関係教員」を呼び出してください

(3) ホームページ等に関して

URL <http://www.shiseinin.org/> E-mail shiseinin@yahoo.co.jp

田浦 智子	十九期	理事	薬剤師
牧 栄	二十期	理事	鍼灸師
北川 太郎	三十一期	理事	薬剤師
五十畑昭彦	三十一期	理事	
三矢 宏	三十二期	理事	弁護士 会社役員
岡田 隆治	三十六期	理事	会社経営
鈴木 実	十八期	監事	母校教諭
土田 雄大	四十六期	監事	元地方公務員 母校教諭

マイページ(会員専用)の機能

個人情報の表示/更新



現姓:	東邦	現名:	太郎
現姓(カナ):	トウホウ	現名(カナ):	タロウ
旧姓:		旧名:	
旧姓(カナ):		旧名(カナ):	

自宅	
郵便番号:	275-8511 郵便番号→住所
都道府県:	千葉県
市区町村 町名:	習志野市泉町
番地以下:	2-1-37
建物名:	
電話番号:	047-472-8191 FAX番号:
携帯電話:	
連絡用E-mail:	※パスワードの自動再発行も利用の際は、こちらに登録されているメールアドレスにメールが送信されます。
連絡用E-mail2:	

自宅住所公開設定:	公開範囲未選択	自宅TEL公開設定:	公開範囲未選択
自宅FAX公開設定:	公開範囲未選択	連絡用E-mail公開設定:	公開範囲未選択
携帯電話公開設定:	公開範囲未選択	同窓生に公開:	公開しない

同窓会に登録されている個人情報を自分で確認し、内容の変更をすることができます。
また、同窓会開催等で、幹事からの請求に応じて、住所情報を開示する範囲を設定したり、会報の受け取りの可否も設定することができます。

連絡先不明者の方をご確認頂けます。もし一覧表に記載されている方の連絡先をご存知の場合には、情報の提供をお願いいたします。

その他の機能



パスワード管理
パスワードを変更いただくことができます。

メールマガジン登録
同窓会が不定期で発行するメールマガジンへ登録できます。

1 宛名台紙記載の会員IDとパスワードを入力して、ログインしてください。

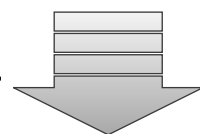
東邦大学付属東邦中学・高等学校同窓会「自生人」

会員ログイン ログインして下さい。 ログイン

※トップページへ

会員ID
パスワード

2 マイページトップ画面



東邦大学付属東邦中学・高等学校同窓会「自生人」

会員ログイン中 東邦 太郎 さん、こんにちは！

アカウント情報 近況報告

氏名: 東邦 太郎 旧姓: 東邦 太郎 学年: 高校1999年A組

パスワード変更

近況報告一覧

不明者一覧

お問い合わせ

ログアウト

FAQ

同窓生の近況報告

※変更操作が上手くできない場合などは、異動通知フォームよりご連絡をお願いします。

特 別 寄 稿

東邦大学医学部へ 進学した方々より

看取りに携わる 医師・教員として

三十六期生 中 村 陽 一



医学部本館

いままで一体、何人の患者さんを看取らせていただいたのだろうか？医師になって二十三年目の今年の春。大学教員として「死生学」の講義の準備をしているときに、ふと考えていた。そのようなタイミングに、中学校時代の陸上部顧問の恩師、御喜副校長先生から本稿の依頼をいただいた。いままでの医師としての歩みを振り返りさせていただき、今後の進むべき自分自身の道しるべとなるよう執筆させていただきます。

私は一九九〇年三月に東邦大学付属東邦高等学校を卒業し、東邦大学医学部へ。一九九六年に大学を卒業、大橋病院第三外科にて炭山嘉伸先生（現 学校法人東邦大学理事長）のもとで大学院生として外科の研修を開始しました。

医師になった最初の数年間、毎日、早朝から深夜まで病棟に詰め、救急の患者さんが来るのを待ち、あるいは病棟で患者さんの状態の変化を診つづけるのが当たり前の時代でした。当時は「働き方改革」などというものはなく、今で言う「ブラック」な時代であり、「日中に当直室や医局で過ごすことは許さない。夕方になるまでは、『診察』『検査（内視鏡や超音波）』『手術』この三つのことをやること。カルテの記載も夕方以後、手術や検査が終了してから手をつけるように！」指導医の先生からきつく言われたのが、ついこの間の出来事のようにあります。

このころの看取りですが、私が日々悩みながら実践していたこと、それは「病院で死ぬということ（山崎章郎著、文春文庫）」に書かれていたシーンそのものでありました。患者さんに「がん告知などNG」の時代であり、終末期のがん患者さんは日が経つにつれ、状態が悪化していきます。「なぜ病院でこんなに治療を頑張っているのに、良くならないのか？」患者さんのこの問いに医師も看護師も、そして家族も「頑

張って、きつと良くなるから・・・」と不可能と分かっているにもかかわらず、本人に真実を告げていないので、励ますことしかできませんでした。次第に医療者も家族も患者に近づくことを避けてしまい、病室に行く頻度も減り、ベッドサイドに行ったところで、本心でのコミュニケーションなど出来るはずがありませんでした。

そして、がん患者さんの最期のとき、われわれ医療者は無駄だと分かっていたのですが、当たり前のように、救命処置を施していました。患者さんの呼吸がとまると同時に、付き添いの家族に病室から出て貰い廊下に居ていただく。われわれ若手の医師、看護師が数名から十名弱、患者さんを取り囲む。そして気管内挿管、人工呼吸、心臓マッサージ、強心剤の投与。当時は「一分でも一秒でも長く患者さんを生かすこと」が医療の目的とされていたのです。しかし、多くの場合は三十分ほどの間、医療者は汗まみれになるものの、心拍、呼吸が戻ることもなく、家族を呼び入れ、「ここまで頑張りましたが、ご臨終です。」と伝えていました。この言葉、頑張っていたのは患者ではなく、医療者という意味合いもあつたのではないのでしょうか。家族は大切な人の最期のときに立ち会うことも、ゆるされず、ただ廊下や待合室で呆然と過ごされていたことでしょうか。亡くなられた患者さんの「尊厳」。いまだあれば、当たり前のことなのですが、当時は、終末期とはいえ、「医療者ができること（心肺蘇生）」をやらないことは許されないと（心肺蘇生）をやる時代でした。終末期のがん患者さんに心肺蘇生をすることで、がんが良くなり、社会復帰できるなどということはあり得ないことです。一九九〇年代の終わりの頃までは、これが当たり前という時代でした。

二〇〇〇年代となり、社会も大きく変化をし、

「がん告知」が当たり前の時代となります。「がん告知をする、しない」の問題から、「どのよう、がん告知を行うか」と医療者側の議論も大きく変化しました。以前より終末期の無理な延命というものも少なくなってきたが、看取りの方法などを教えることはなく、自分自身のなかで、徐々にこうあるべきだという態度、技能が備わってきて、自然と終末期における患者、家族とのコミュニケーションがとれるようになりました。

そのような中で、医師になって十年目、自分の中で「緩和医療」をとっても意識することになった患者さん・ご家族と出会いました。進行がんの告知から、手術、その後、再発の告知、化学療法と主治医として関わらせていただきました。しかし、病状が進行、化学療法も中止。それでも患者さんの傍にいたことが、自分の中では当たり前のことで、さまざまな事をお話しさせていただきました。患者さんの人生のこと、仕事のこと、家族のこと……。ただ、私は患者さんの物語を聞いていただけでした。このころには、もう終末期に無理な延命治療を施すことも少なくなっていました。患者さんの死亡確認をさせていただいたあと、ご家族から「先生、最高の緩和医療をありがとう!」、枕元で握手を求められたのです。

自分の中では、この当時まだ「緩和医療」を特に意識していたわけではありません。ただ、ひとりの医療者として「病める人とその家族」の物語に寄り添っていただけでした。でも、わたしの提供した医療を「緩和医療」とこのご家族は評価してくれたのです。自分のなかで、とても大切なことに気がつくことの出来た瞬間でありました。

その後、外科に在籍をしながら、自分のなか

で「緩和医療」とくに「人生の最終段階での医療」をライフワークにしたいと考えるようになりました。まずは、大橋病院の緩和医療の質を高めるため、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカーといった多職種で連携する「緩和ケアチーム」を結成。大学病院における緩和医療のあり方や苦痛症状への対処方法に関して、自分たちの中で学びながら展開していききました。外科だけでなく内科、婦人科、泌尿器科と様々な診療科の先生とも一緒に診療をさせていただき、多くの患者さんの看取りを経験させていただきました。

緩和医療に軸足を移してからさらに十年、自分のチームだけで診ることのできる患者さんの数には限界があること。せっかく大学に所属しているのだから、もっと緩和医療を広めることが出来ないか。医師になって二十二年目の昨年春にいままで在籍していた大橋病院を離れ、大森の医学部に異動することになりました。新たに設置された臨床腫瘍学講座と医学教育センターに在籍し、東邦大学のがん医療のレベルアップとくに卒後の専門的ながん医療に携わる医療者の育成と卒前教育（医学部の学生教育）に携わっています。東邦大学医学部では毎年一〇〇名以上の卒業生が誕生しています。彼らが「緩和医療」のことを正しく認識し、「人生の最終段階における医療」のあり方を考えることができる人材へと育てること。これを自分の次のミッションにしたいと考えました。



平成 30 年 5 月撮影

現在、「緩和医療学」「死生学」などの講義、演習、実習を担当させていただいております。学生が将来、どの診療科に進んだとしても、心のなかで「緩和医療」「人生の最終段階における医療」を意識した診療を行い、「より良き臨床医」として羽ばたいてくれること。医師でありながら、教員という非常に恵まれた仕事を母校で与えていただいております。私をこれまでもこれからも、ずっと育て続けてくれている、東邦大学付属東邦中学校・東邦高等学校、東邦大学、そして母校の恩師、同級生、先輩・後輩をはじめ同窓生とのご縁に改めて感謝申し上げます。

六十三期生 河 合 理 花

私は両親が医師であることもあり、小学生の頃から自分も同じ医師になりたいと考えていま

した。東邦大学医学部については、私の母や伯父、叔母が卒業生でその伸びやかな校風についてよく聞いており、誰もが勧めてくれることから素晴らしい学校に違いないという思いを抱いていました。中学入試に際し、東邦大学医学部への推薦もある東邦中学校を受験し合格することができたので、迷うことなく入学させていただきました。そして、充実した六年間の学生生活を東邦中・高等学校で過ごし、特別措置推薦を受けて今年の四月に東邦大学医学部に入学させていただきました。中学・高校の先生方には学業面はもとより、医学部への推薦を目指していた私のモチベーションを維持するための精神的なサポートにつきましてもたいへんお世話になりました。さらに推薦試験の前には、受験をするにあたっての準備や心構えをご指導いただいたことは、私にとって本当に心強く、深く感謝しております。

東邦大学医学部の学生は日本全国や、さらには海外の高校出身の学生もいて、その出身地の特色や習慣について話をするのも学校に行く楽しみの一つです。大学では、授業は高校までのようにクラス毎に分かれるのではなく、学年全体で受けます。授業の内容は難しいのですが、同級生同士で教え合ったりして互いに助け合っています。そのように学年全体で乗り越えていくという雰囲気は自然と湧き上がる環境はとても良いものと感じます。また、先輩方はとても親切で生活面や勉強面に関して色々なことを教えてくださるので心強いです。先輩方をお手本にしてこれから多くのことを学んでいきたいです。

私たち一年生は入学して二日目からフレッシマンキャンプという学外合宿に参加しました。そこでは東邦大学医学部の教育理念であ

る「より良き臨床医」とは何かというテーマに基づいて、グループで話し合い全体発表を行うグループワークが行われました。私たちのグループでは「理想の学生像・医師像」について考えました。みんなそれぞれ異なった意見を持つていて、それらを聞くことは自分の将来の医師像を考える上でとても良い機会になりました。現段階の私にとって、「より良き臨床医」とは豊かな社会的知識をもち、患者さんの価値観や背景を理解した上で一人の人間として診療をできる医師です。それを実現するためにも大学の六年間を有効に活用して幅広い知識を身に付けたいと思います。東邦大学医学部の選択科目には哲学や宗教学、経済学などの人文社会学や音楽、美術などの芸術といった様々な分野があるのでそれらを活用して広く学んでいきたいです。また、英語の授業は少人数制で四年間行われることになっています。英語の授業が四年間ある医学部は珍しいと聞きました。国際化社会に向け、医師として働くにあたっては英語を自由に使えることは必要ですので、この機会をしっかりと生かしたいと思っています。

私は将来、医師という職業を生かして多くの人に貢献したいと考えています。医学部に入学することができ、これからの六年間の学生生活の活かし方が自分の人生に大きく関わってくると思いますので、初心を忘れず、謙虚な気持ちで日々夢に向かって邁進いたします。

六十三期生 大 木 愛 実

私は、昨年の特別措置推薦を経て今春に東邦大学医学部に入学しました。普段から東邦高校の先生方には、学習面で大変お世話になっていました。さらに、特別措置推薦の対策では面接

や小論文などを見ていただいて、とても感謝しています。

約二か月前までは高校生であったことが信じられませんが、クラスがあって、毎朝ホームルームがあった生活は、大学に入って一変しました。大学は自由な雰囲気です。学ぶことができます。しかし同時に責任も課せられるため、責任を自覚し生活することが重要だと感じました。東邦大学には全国から学生が集まっています。医学科に在籍する人たちは、医師になるという目標は同じですが、様々な年齢の人がいて、中にはほかの大学に行っていた人や就職していた人もいます。各地の方言がたわいもない会話から聞けたり、驚くような経験を聞けたりして、学校生活はとても楽しいです。教師ではなく学生が主体となって学校を運営しているため、とても頼もしい先輩が多いです。学習面でも生活面でもこうした先輩をお手本にしたいです。授業形態も高校とは全く異なります。講義室という広い場所に学年全体が集まって、みんな一緒に授業を受けることがほとんどです。高度な内容を扱うことが多いため、授業後には度々先生の前に質問者の列ができます。私も授業時間外に何回か先生のお部屋まで質問をしに行きましたが、とても丁寧に教えていただきました。そういったところは高校の時と変わっていないと感じました。

東邦大学の医学部ではより良き臨床医の育成を教育理念として掲げています。私たち一年生は入学後すぐに、より良き臨床医とはどのような医師かということを考える機会がありました。同級生と話し合い、先生や医師の方々の意見を聞いて私なりの答えを出しました。私にとって、より良き臨床医とは、豊富な知識や卓越した技術と幅広い視野を持つとともに患者

さんとの信頼関係を築くことのできる医師です。東邦大学の医学部ではより良き臨床医を育成するために個性的なカリキュラムが組まれています。一つ目は、コミュニケーションという授業があり、患者さんとの接し方を学んでいます。私たちが普段当たり前にやっているコミュニケーションですが、細かい違いが相手の受け取り方に大きな差をうむことを知りました。他にも症例を皆で検討したり、先輩方にアドバイザリーとして教えてもらったりと、人間性に関する教育が徹底されていると感じました。二つ目は、英語の授業時間が多く、少人数で行われています。生徒が能動的に授業に臨んでいます。私も英語でのプレゼンテーションの準備を進めています。三つ目は、フレキシブルタイムという自学自習の時間があることです。授業の復習の時間が十分にあることで、前の授業内容を理解してから次の授業に臨むことができます。これらのカリキュラムを着実にこなすことによって、より良き臨床医に近づけるように励みます。

医学部生は一般の人と医師の中間の立場です。決しておごることなく、謙虚な気持ちを忘れずに学んでいきます。医学部に入ってからまだ日も浅いですが、自分の医師としての将来が少し決まりました。私は東邦大学医学部を卒業した後、千葉県内の医師不足地域で働いて、医療過疎の改善に貢献したいと思っています。今は学び始めたばかりですが、自分の理想の医師になれるように日々歩んでいきます。

六十三期生 倉 橋 杏

私は、今年の四月に東邦大学医学部に入学しました。この一カ月は、新しい環境での忙しい毎日で、あっという間に過ぎたような気がし

ます。

私は、高校一年生の時に祖母を亡くしたことがきっかけで医師を目指すようになりました。私の祖母は、老化に伴う慢性的な多臓器不全などの理由から、数年間入院を繰り返す生活を送っていました。入院中の祖母は、ベッドに縛られ生命維持のための管につながれており、その光景は人間として生きていく上でどこか違和感を覚えるものでした。そんな中で私は、進路を決めかね参加した病院での医師体験において、緩和ケア病棟を訪れ、人間らしい生活を提供することができ、医療に魅力を感じ、緩和医療医になるために医師を目指し始めました。私の考える理想的な医師像は、医学的知識や技術などの医師としての高いスキルを身につけており、他職種の医療スタッフや患者、そしてその家族とのコミュニケーションを円滑に行うことで、しっかりとしたチームワークを築くことができる医師です。

東邦大学医学部に入学してすぐに、二泊三日のフレッシュマンキャンプがありました。ここでは、レクリエーションや部屋での時間を通して、これからの六年間を共にする仲間との親睦を深めたり、先生方からのメッセージや心肺蘇生の実習などから、医学生としての自覚を再確認することができました。このように充実した三日間の中でも、一番印象に残ったのはグループワーキングです。ここでは、十人ずつで構成されたグループごとに、選択した医療テーマについて話し合い、その結果を全員の前で発表しました。私のグループは、これからの高齢社会において延命治療をどうしていくべきか、医療費の増大によって圧迫した日本の財政についても触れながら話し合いました。これはどのテーマについても共通して言えることですが、しっ

かりとした答えがある訳ではないので、どこから話を掘り下げていけばよいかが分からず、話し合いはとても難しいものでした。しかし、同じグループのメンバーは次々と積極的に自分の意見を述べていて、自分のコミュニケーション能力がまだまだ未熟であることを思い知らされました。私なりに考えて、素早く話し合いの状況を理解して自分の意見をまとめる能力と、それを分かりやすく簡潔に他人に伝える能力が不足していると感じました。後半は、みんなについていこうと必死に話し合いに参加しましたが、能力の差に焦りを覚えました。

その後、通常授業が始まって大学生活にも少し慣れたころ、一回目のコミュニケーションの授業がありました。これは、常に患者の立場に立つて物事を考えられる医師になるために、六年間を通じて行われる全人的医療人教育の一環です。この授業は、聞き手をメインとした実践型のものでした。内容としては、話し手の悩みを聞いてあげるといふものなのですが、その人の悩みの原因や経緯などをただ聞き出せるかがカギとなりました。これは、将来自分が医師になった時に必要な力だと思います。なぜなら、患者のそれまでの病歴や趣味、暮らしなどによって、診断や治療法が大きく変わる可能性があるからです。このように、将来とても大事になるスキルを一年のうちから鍛えることができるかと分かります。フレッシュマンキャンプで不安に思っていたことも、これなら頑張って改善することができると思うようになりました。

医学部生としての道のりはまだ始まったばかりですが、これからの六年間は同じ志を持った仲間と切磋琢磨しながら、自分の考える理想的な医師像に近づけるよう励みたいと思います。

習志会会長・副会長を 務めた方々より

習志会会長・副会長を務めた同窓生

小山千明 (1 期生)	会長 (昭和 57 年度～ 59 年度)
小川久朗 (27 期生)	会長 (平成 20 年度～ 22 年度)
西中久美子 (26 期生)	副会長 (平成 25 年度～ 26 年度)
山崎常久 (31 期生)	会長 (平成 25 年度～ 27 年度)
前田浩良 (33 期生)	会長 (平成 28 年度～ 29 年度)

付 小山千明様のお孫さんがこの春、東邦高校をご卒業になりました。親子三代の同窓生ということになります。

人間力を高める

二十六期生 西中久美子



向暑の候、同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。新しく「自生人」の仲間入りをされた新同窓生の皆様、おめでとうございます。

私は東邦で二度の学ぶ機会をいただいた者で

す。一度目は私自身が生徒であった時、そして二度目はわが子がお世話になった六年間で習志会の役員をさせていただいた時です。

役員は学年委員を二年間、本部役員を四年間務めさせていただきました。この六年間は、千秋の時を経て驚くほど立派に変わった学校施設に隔世の感を抱くと共に、変わらず連綿と引き継がれてきた東邦の精神に懐かしさ、そして改めて誇らしさを感じる時間でありました。

東邦の素晴らしさは、正に「自生人」として、生きる力を育む教育にあると思います。

自身が生徒であった時には、小さな反抗をしてよく先生に叱られました。しかし一方で「積極的なのは、良い。」と受け止めてくださったことを思い出します。自らの立場に於いて考え、動き、責任を負う。自立と自律の大切さを教えてくださったのです。認めて、見守っていただいたことを心より感謝しております。それこそが、今日の私の礎石となっています。

年を経て保護者の立場となり、図らずも何人かの卒業生の方と共に役員の仕事をさせていただく機会を得ました。元気でフロンティア精神に溢れる方たちばかりでした。「我々の辞書に不可能の文字はない！」と言わんばかりの様々なチャレンジを、共にさせていただきました。

「東邦の精神ここにあり」と思いました。良い仲間に出会え、嬉しかったです。

もちろん、色々な場面で先生方にご負担やご迷惑をお掛け致しました。感謝とお詫びを申し上げます。東邦で二度の学びの機会をいただくことができたのは、本当に幸甚なことです。

私は今、日本語学校の社員として主にアジアの学生の指導に当たっています。アジアの特定地域の若者は、概して声が大きく、物怖じせず、自己主張が強い人が多いように思います。彼ら

は多くの日本人にはない気質を持っています。

日本に於いては、「自己主張」はネガティブな側面で捉えられることも多いかもしれせん。ともすれば「我儘」と同義で扱われることさえあります。しかし、自己主張ができる＝自分自身をしっかり持つということは、他人を理解し、多様性を理解する大切な一歩となるのではないのでしょうか。

これからのグローバル社会を生きていくために、必要な力ではないでしょうか。

「習志館」がかつて「白羽寮」であった頃、クラスメイトには沖縄や福島など遠方から入学してきた友人がいました。子供心に「すごいなあ。遠くから来たんだなあ。」と感動し、あれこれと質問をしたものです。小学校を終えたばかりの十二歳にとって、他府県出身の友人との交流は、十分にグローバルなものでした。また、他府県出身の生徒に限らず、東邦には個性あふれる「つわもの」が沢山おりました。とにかく元気な友人が多く、お互いに自己主張が過ぎて、口喧嘩になることも多々ありました。けれども、だからこそ互いへの理解を深めることができたのだと感じています。今思えば、「自生人」として歩みを始める一歩としての豊かな時間であったと思います。

多様性を理解することは、狭い世界や偏見に捉われず視野を広げ、人間力を高めていくことに繋がっていくと考えます。そのためにも、自分の中の人間としての軸をしっかり持つことが大切であると思います。

東邦には、それを育む精神があります。気概があります。

この素晴らしい学び舎が、永遠に輝き発展していくことを心より祈念致しております。

東邦プライド（日本一、 魅力的な進学校になろう）

三十一期生 山崎 常 久



長男が平成二十二年度から東邦でお世話になった御縁で平成二十五年度から三年間、東邦のPTA、習志会の会長を務めさせていただきます。

た。その時の習志会の活動を中心に、六年間お世話になった長男、そして東邦と私を繋ぎ続けてくれたラグビー部の事をつらつらと書かせていただきます。

「東邦プライド（日本一、魅力的な進学校になろう）」この表題は、平成二十七年度の習志会だよりの巻頭挨拶で掲げたキャッチコピーです。保護者の方々とお話ししていて、習志会として学校を今以上に明るく元気に応援する方法は無いものかと、あーだ、こーだ言いながら考え付いたメッセージで、こうやって振り返ると、あまりにも直截的で汗顔の至りですが、今更、取り消すこともできないので厚かましくも再度、掲げさせていただきます。

学校を明るく元気にしたい。子供達は卒に収まらず、突き抜けてほしい。そんな想いを根底に据えながら、三年間会長職を務めました。習志会は東邦の最大最強の応援団である、という立ち位置を打ち出して、会員の保護者の皆さんにも前向きに参加していただくよう呼びかけました。また、習志会からの提案で、習志会予算からの銀杏祭への補助金を二〇〇万円増額して中庭にセンターステージを購入していただき、さらに毎年の同額補助を恒例化しました。この予算で、ステージ増設、バックスクリーン設置、

音響設備強化等、ハード面の充実を図り、結果、年を追って目に見える形で銀杏祭は素晴らしい学園祭に成長してくれています。センターステージを中心とした中庭は、子供たちの音楽、ダンス等のパフォーマンスの発表の場として、これからは生徒たちの成長を支え続けてくれることでしょう。同窓会の皆さんも、是非、銀杏祭に足を運んでいただき、後輩たちの元気なパフォーマンスを楽しんでいただけると嬉しいですね。

「今年を国際化元年としたい」。平成二十六年度の習志会総会での御喜副校長先生の宣言を受け、習志会も動きました。習志野市の姉妹都市、米国アラバマ州タスカルーサから一二〇名の合唱団と保護者の方々が来校されたのですが、保護者の方々六十名のケアを習志会に依頼され、皆で知恵を出し合っておもてなしに精を出しました。カフェテリアでお客様二人に一人の割合で東邦の保護者がホストに付き、一緒にお弁当をいただいた後、先方の保護者六十名をグループに分け、茶道・書道、剣道・柔道・弓道の日本文化の部活を体験していただきました。生徒、先生、習志会が一体となって外国からのお客様をおもてなしでき、大変、好評を得たことが思い出深く残っています。習志会としても国際化元年に合わせて自主的に動きました。卒業生から寄贈していただいた体操服・アリーナシューズをカンボジアに贈ることです。生徒の皆さんの御協力で二〇〇着を超える体操服が集まったものの、言うは易く行うは難し、漠然とカンボジアと言っても全く当てもなく、現地の伝手を探り、輸送手段を模索しました。が、輸送費だけで DHL の見積もりが三十万円……。後進国支援活動を行っている企業や NPO との協業も考えましたが、結局、自分で持つていくのが一番、手取り早く費用もかからないので、アンコールワットで有名な街、シエムリアップの高校生約一七〇名に手渡しで渡してきました。アリーナシューズは KDDI の御協力でミャン

マーのバレーボールチームに贈ることができました。今後もこのような活動を通じて生徒たちが様々な国に目を向けてくれればと期待します。

長男は、在学中、ハンドボール部で顧問（当時）の柴田教頭先生に厳しく鍛えていただき、仲間にも恵まれたことで、中学三年時には富山県の水見で行われた全国大会に出場しました。チームはベスト十六まで勝ち進み、家族で水見まで応援に行き日本海のグルメを満喫できたことも楽しい思い出です。彼は二浪して今春、三鷹の大学の医学部に進み、ハンドボール部に入ったようです。当時の仲間とアリーナで再会できるのではと親としても楽しみにしています。

私が在校中から熱中していたラグビー部ですが、東邦ラグビー部は歴史こそ六十年以上の長さを誇っていますが、実態は十五人集めるのがやっと、何度も廃部の危機にみまわれました。顧問（当時）の松本校長先生が投げ出さずに続けていただいたおかげで、現在も部員七名ですが、他校との合同チームを結成することで活動を続けています。ラグビー部は毎年四月二十九日の午後から学校で OB 会を開いています。グランドで OB 戦を行い、礼法舎での簡単な総会の後は場を移しての懇親会で、このスタイルは三十五年以上、続いています。ラグビー部関係者に限らず、興味のある方は大歓迎ですので、お気軽にお越しください。

つらつらと取り留めのない事を書いてしまいましたが、習志会に関わった数年間でも学校は確実に進化しているのを感じました。二千数百名の大所帯ですが、そこを構成しているのは人間で、人間は応援されると嬉しくなり元気になるものだと思えます。教育機関に完成形は無いのかもしれないですが、やはり目指すならば日本一魅力的な進学校。同窓会の皆さんに於かれましては、是非、銀杏祭等の機会に母校に足を運んでいただき、母校の進化を楽しみながら、後輩たちの活躍を応援していただけると嬉しいです。

横山秀明君（三十一期生） 三十三回忌に寄せて

横山秀明

三十三回忌に寄せて

河 合 紫 織

平成二十九年六月三日に亡き弟の横山秀明のために多くの方々にお集まりいただきました。この会は幹事である東邦大学付属東邦中学・高等学校同窓会理事の三矢宏様はじめ同窓会副会長の渡邊学様同じく理事の北川太郎様、弟の竹馬の友ともいえる戸叶尚史様、世話人の山崎常久様、五十畑昭彦様、黒木義浩様、熊倉礼子様が主催して下さい、松本琢司校長先生はじめ石井智津子先生、山岸良二先生の三名の先生方と多くの同窓会の方々にご参加を頂きました。さらに、奇しくも横山家の菩提寺と洞門の曹洞宗御住職となられた同級生の丹羽浩道様に墓前及びその後の三十三回忌会で読経を頂きました。遺族を代表して厚く御礼申し上げます。

いまでも、弟の事を考えると涙なくしては考へることが出来ません。昨年の三十三回忌会に寄せて原稿を依頼されておりましたが書こうすると涙が止まらずに長くお待ちしてしまいました。この誌面をお借りしてお詫び申し上げます。また下記の文章中、本来敬称表記すべき方々を当時の懐かしい呼称とさせて頂きました事もお許し頂きたくお願い申し上げます。

三十三年前に弟は交通事故により亡くなりました、相手方の信号無視による事故でした。当

日は早慶戦の最中で何人もの早稲田大学の友人より観戦にさそわれていたのですが、中学からの友人が相談したいことがあるとの事で「可哀そうだから行ってくる。」と言い家を出たそうです。弟は幼い頃からエピソードが沢山ありました。東邦中学時代と高校時代のエピソードと同じ位と言えば中高時代の数々のエピソードを御存知の方は驚くかもしれません。大学入学後は高三の受験時代より更に勉強し、特に英語はハイレベルで英文科に一年通った後に歯学部へ転向した私に、専攻を変えてよかったと思わせた記憶があります。今回、弟の一年後輩の桜井君から初めて聞いたのですが高校三年全国模試で英語は千葉県三位の成績だったそうです。英語を習ったのは中学校に入学してからでしたのでかなり良い方だったのではないのでしょうか。運動も好きでトレーニングも続行し体を鍛えていました。前校長の小高先生が好きだったのか、友人が多かったからか、高校三年の時に文系志望は決めていたようですが特進理系クラスに在籍しておりました。これも桜井君から聞いて初めて知ったのですが「小高先生の数学で点を取れること自体が難しい、テストはいつも四題ぐらいの大問題のみで計算問題なんかでないですよ。○点取る生徒続出でしたよ。」姉は計算問題のみで凌いできたので、弟もそう違いな位と思っていました。数学も小高クラスで五段階評価の四・三を頂いていたので、問題を解くことが出来ていたのでしょう。このように同じ学校に在籍していたのに知らない事は沢山ありました。三矢君と戸叶君が三十年以上経て横山家に来て下さって秀明の仏壇にお線香をあげて下さった後、秀明の勉強部屋を見せて欲しいとの話がありその流れでバスルームが目に残った

様子で、戸叶氏（この時点では氏）が一言「懐かしな（このお風呂）」とおっしゃるので私が「？」という顔をしていると「お姉さん、僕はこの家に二年間住んでいました。」と言うではありませんか！晴天の霹靂で、全く記憶がないというか、そう言えば弟の友達が沢山我が家に集まっていたけれど、二年間も住んでいた人がいたとは！

戸叶君の事で覚えていることは二つ、一つは弟の通夜の当日のこと。通夜会場の自宅から数百メートル先まで人で埋め尽くされた通夜で多くの方々が弔問に来てくださいました。皆さんが帰られて深夜になっても秀明の通夜のロウソクの火が途絶えてはいけなから傍にいと翌朝までずっと泣いていた十代の戸叶君の姿を鮮明に覚えています。

もう一つは十数年前、主人の母校である東京医科歯科大学病院医学部の耳鼻科のHPに戸叶先生の字を見つけ、母にこの先生は秀明の同級生の戸叶君ではないか？珍しい苗字だからと話していたこと。今回、やはり耳鼻科の先生は戸叶君であり今は開業したこと、当時は歯学部の口腔外科に出張して歯科病棟手術室でもOPEをしていたと聞き、同じ病棟の歯科麻酔科で働いていた私は立派になった戸叶先生のOPEを見たかったし、更に出来れば歯科麻酔科医として麻酔をかけてオペレーターの戸叶君をサポートしてみたかったと思ったものでした。戸叶君の人生もこの誌面では語り尽くせない程エピソードがあると思います。決して平坦な道の前ではなかったのではないかと思います。学部の変更や他大学出身から研修され医局長になられた御努力など秀明が生きていたらさぞ喜んでいただけないと思います。同窓会の理事として立派

にご活躍されている三矢理事も多くのエピソードをお持ちで、そのお話を聞くだけでも年に一度開催して下さる同窓会に出席する価値があると思いますので、まだご参加されていない同窓生の皆様は是非今年の同窓会に出席して頂きたいと思います。東邦大学付属中学高等学校が生徒の人間性や将来をいかに長い目で温かく見守って下さっているかが同窓会の集いで伺い知ることが出来ると思います。弟もその一人でした、中学三年生の時に石井智津子先生の温かい御配慮でその後の高校生活が全く違うものになりました。

さて、秀明は生きていたらどんな人生を、送っていたのだろうか？と思わずにはいられません。弟は小さいころから自分の事は自分でなんとかしようとする子供でした。小学校高学年になると少し年下の従兄弟の家庭教師を勝手出してお小遣いを貰っていました。貯めたお金で何を買っていたか？という洋服でした。中学生の頃にはアメリカ東部の大学生向けのファッション雑誌（いわゆるアイビールック）を手に入れ参考にして服を買っていました。自分のスタイルを幼い頃から明確に持っていました。その大部分がアメリカ東部に通じていたことから考えると後々は留学し、経済的な自立も趣味？という意味で MBA を取るかウォールストリートの投資の世界に関心を持ったのではないかと想像します。一方で教育、学校の先生になる夢を持っていたので、生徒に影響力を与える教育者になれたかもしれません。いずれにしても、自分の持ちうる限りの力を尽くしたに違いないと思います。

小高昌次 前校長先生より（当時の通知表から）
語学関係の知識、理解に優れている。特に英語

についての力は著しいものがある。語学に対する興味をそのまま力とし、読書量も豊富である。趣味、読書（主に哲学方面）
性格、温厚誠実で、目標を決めたら一心にそれを目指して成就しようと努める。計画的に事を運ぶ。

今回の会に参加下さった方々、思い出を書いて下さった方々より

- ・私の中の横さんはちょっと斜めを向いていつも笑っている、そんな人でした。いろいろな武勇伝ありましたが、すごく素直で優しく、そして一途な人でしたよね。
- ・ボクサーのような肉体だった事を記憶しております。非常に親切的な優しい先輩でした。
- ・横さんに手話を教えてもらった思い出がなつかしいです。
- ・これだけの時が経ても皆に愛されている横山君は本当に素晴らしいと思います。私自身、横山君と同じ年頃の長男を亡くしており感慨深いものがあります。

松本校長先生より横山は第一希望が国立大だったので早稲田大学に決まり失意の中にいる様子で、そのまま落ち込んで亡くなったのではないかと長年思っていた。しかし大学入学後の方がさらに勉強していた様子や入学後二か月で早稲田大学の演劇博物館のスタッフと親しくなった様子などから、大学生活を謳歌していたことを知ることが出来て良かったとおっしゃって下さいました。さらに秀明のアルバムの中から本棚にレイモンド・チャンドラーの小説 The Long Goodbye の原書があったことに注目して下さい、その本をモチーフに

スピーチをして下さいました。遺族は、ともすると今でも深い悲しみや無念さに囚われてしまいがちでしたが、弟が生きていたらそのような後ろ向きな家族をけして喜ばない、弟が逆の立場だったら誰よりも深い弔いの念を持ちながら自分の人生を強く逞しく前に進んでいったに違いないと気がつかせて下さるスピーチでした。その松本校長先生の前向きで心優しいスピーチを拝聴することが出来て本当にこの会を開いて頂いて良かったと思いました。なにか事を起こすということは賛同だけではなく批判も起こる、それが大人の社会です。遺族としてはもっと何もしなければ批判も受けないという気持ちも確かにありましたがそのような心配より、多くの方々が大切な時間を割いて開いてくださる事に感謝をしようとの思いで三十三回忌の会に臨んでおりました。会当日に想像以上に入念な計画とそれに伴う時間をかけて開いて下さった事を知りました。この会がなければお会いできなかった方々ともお話が出来ました。弟も安堵してくれたに違いないと思います。遺族一同改めて深く感謝申し上げます。

横さんとハードリカーを飲む会 — 故横山秀明三十三回忌会報告

戸 叶 尚 史

平成二十九年六月三日故横山秀明の同窓生や後輩が横山宅近くの居酒屋に集結して、横さんとハードリカーを飲む会が執り行われました。横山は昭和六十年卒の三十一期生で、三十三年前、早稲田大学入学後の六月一日に交通事故に遭われ三日に逝去されました。会におきましては、遺族である、お母さん、お兄さん、お姉さ

んはじめ、松本校長先生、山岸先生、石井先生にもご臨席いただきました。本当にありがとうございます。同窓会報に同会の報告をこのことで同窓会理事の三矢宏から原稿依頼がありましたので僭越ながらご報告させていただきます。

この会の企画はさかのぼることほぼ一年前から始まりました。私事、学位取得、留学を経験し、大学で教職を勤め、教授退官とともに大学退職、開業を考えていた時期で、その関係で三矢とは定期的に顔を合わすことがあり、ある日横山の三十三回忌をするからお前が主催しろと言われました。故人の三十三回忌を親族ではない同級生が開催するにあたっては、いろいろな意見があり、また、横山に対する想いもひとそれぞれちがうものがあると予想され、三矢の発案で横さんとハードリカーを飲む会と命名することになりました。もちろん遺族の了承を得に行きましたが、会としては三十三回忌と同日に同窓生が勝手に集まって飲み会をしている、というのが主旨となりました。

私は受動的な立場で三矢の意見を聞いていたと同時に、物事が進むにつれ、彼が社会的な物事を深く理解して企画発案し、なおかつ確実に遂行するようになっていくことに驚きました。考えれば当たり前のことなのでしょうが、彼が五十過ぎの会社経営者で、社員の生活を家族含めて責任持って担っているのが普通になっていると感じました。また、山崎常久、北川太郎が同窓会名簿からひとりひとりにはがきで連絡をしてくれました。付属中学入学当時、山崎は横山と、北川は私と同じクラスで、キックオフ会、進捗状況の報告会などで、故人の思い出ばなしに花が咲きました。

会の当日、参加者たちは十四時に最寄り駅に

集合して、タクシーでお墓参りに向かいました。同級生であり、横山のバイク仲間であった丹羽浩道が曹洞宗高根寺の住職になっており、また、偶然にも横山家と宗派が同じだったこともあって、墓前で読経をしていただきました。住職となった丹羽は、石は大切に扱えという説教もしてくれましたが、墓石にワインをかけるという同級生の行為はなんとか見逃してくれました。その後、徒歩で会場に向かうことになり、各々横山との思い出や近況などをはなしながら居酒屋に向かいました。

会ではまず献花が行われ、ご遺族の方々、恩師の先生方からお言葉を賜り、厳肅な雰囲気が始まりました。しかし会が進むにつれていつもの同級生のノリになり、店のハードリカーがすべてなくなり、持ち込みのウイスキーを店の許可を得て飲むことになりました。会の終了後、松本校長先生、三矢と私の三人で横山宅にお邪魔して、横山の仏壇に報告いたしました。そして後日、幹部で収支をまとめて報告することにより散会となりました。

昭和五十四年四月東邦大学付属東邦中学校に入学した私の、横山との思い出は中学時代が中心で、当時は平日、休日の区別なく毎日一緒に過ごしました。文章の依頼を受けたとき、故人に関して思いを馳せましたが、いろいろ考えても文章にできないことの方が多いとすぐに理解しましたので、会の流れについてかいつまんでご報告いたしました。

文章に失礼がありましたらご容赦ください。末筆ながら同窓生皆様のご健康とご多幸を祈念し、横さんとハードリカーを飲む会の報告とさせていただきます。乱文におつきあいいただきありがとうございます。





四十二期生同窓会

四十歳不惑の大同窓会

四十二期生 大野 彩 女

(旧姓 鹿島)

二〇一七年度、私達四十二期生は四十歳を迎えました。私達が高校二年生だった一九九五年に阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件と衝撃的な出来事が続きました。また、在学中に細野直校長先生がお亡くなりになり、まさに「自然・生命・人間」とは何かを問い続けた三年間でありました。

東邦を卒業して約二十年、四十歳というこの節目の年には是非集まろう、と田渕康允君の声かけで二〇一七年十一月十一日に同期会が開催されました。Facebookを中心に開催情報の拡散を行い、菊川祐治君が専用サイトを作成して出欠や近況報告の管理をしてくれました。それぞれが仕事や家庭において責任ある立場となり多忙な中、約一〇〇名が参加し盛大な会となりました。

卒業以降初めて再会する人達も多く、どのような会になるか若干の不安はありましたが、集まってしまう魔法のように高校時代に戻っておりしました。

来賓には松本琢司先生、三住泰之先生、森岩公子先生、山崎宣彦先生の四名が参加して下さいました。

いました。松本先生は校長になられ、沖縄修学旅行中に産まれたお子様はもう成人されているとのこと、月日の流れを感じました。森岩先生は大学の生物講師の傍ら、茶道教室をされており、そのパワフルさはご健在でした。山崎先生は当時二十八歳だったそうですが、二十年の時を感じないくらいお若く素敵なお方です。同期生かと間違える人達もいた程でした。三住先生は沖縄でのんびり暮らしていらつしやるそうで、この日のために遥々上京して下さいました。

先生方を交えて思い出話や近況報告は尽きることなく、あつという間の二時間半でした。次回の開催は五年後、二〇二二年を予定していることを告知して閉会となりました。

短い時間ではありますが、同級生と顔を合わせ、話をするだけで、自分が何のために何を思っているの道に進んできたのか、忘れていた理由に触れるような感覚を覚えます。また、それぞれの今を知ること自分への励みとなり、明日もまた頑張ろうと思えるのでした。四十歳という節目に、こうやって互いに元気な姿を確認し合えたことを嬉しく思います。

この同期会の二か月後、悲しいことに北尾誠君が病気のため他界しました。私自身看護師として数多くの患者様を看取してきましたが、同級生の死は簡単に受け入れられるものではなく、今もなお次の同期会で再



2017 年 11 月 11 日 京橋モルチェにて



※写真は東邦高校 1996 年卒業アルバムより

会出来るような気がしてなりません。
あの日交わした「元気?」「久しぶり!」などたわいのない会話がいかにも貴重な瞬間で、私達の時間には限りがあることを改めて気付かされるのでした。

そしてその二週間後、私事です。第一子を出産いたしました。この世に存在していなかった生命が約十カ月間自分の中で驚異的な細胞分裂を起こしながら、一人の人間として誕生したことはまさに神秘的な経験でした。

「宇宙・自然の無形の偉大な力を畏敬し、自然からその一部としていただいた生命を大切に、科学技術の進歩や物質文明の限界を自覚して、人間の心の向上を目指して生きよう」東邦の理念は四十歳の今もなお私達の根底にあり、そして今後も新しい自分探しの旅を続ける糧になっていくのだと思います。

また五年後に多くの同級生と再会できる日を楽しみにしております。



理想一起追走―獅子山下にて

三十四期生 藤村 智子

私は香港特別行政区に移住して今年で十七年目になります。今回は生活者からの視点として、香港の高齢者福祉対策についてご紹介します。

まず、何故私が香港の福祉活動に興味を持ったかですが、永住権を持つ市民として、何らかの社会貢献活動をしたかったのがきっかけです。しかし、募金や寄付以外で外国人が地元社会に接する機会はその多くなく、私自身長い間その方法を模索していました。香港は英語・広東語・中国語（普通話）の三種の言語が公用語ですが、地元民は私生活で主に広東語を使うので、言葉が出来ないと参加が難しい面があるのです。香港のボランティア団体は英国植民地時代から長い歴史を持ち、無償の福祉サービスにとどまらず様々な事業を行っています。幸いなことに昨今、特定団体が主体だったボランティア活動が一般人参加型へと切り替わり、私の様な言葉の不自由な外国籍の市民も参加の機会を得ました。そういった体験から、社会的企業や NGO についてもっと調べてみたいと思いました。

次に、現時点での香港の社会福祉問題ですが、貧富の格差問題、移民問題、犯罪者更生といった問題のほかに、社会の高齢化問題があります。香港は日本と一二を争う長寿社会で、平均寿命は男性八十一・三歳、女性八十七・三歳なのです。現時点で香港政府は、二〇六六年には六十五歳以上が全人口の三十七%を占めると予測しています。以上の二点から、今回は高齢者社会対策に焦点を当てて香港の現状をご紹介します。

香港の高齢者人口は二〇〇六年と比べ

二〇一六年中間統計では三十六・四％増加し、六十五歳以上が全人口の十五・九％を占めました。高齢者の八・一％が施設で生活しており、十三・一％が独居、二十五・二％が老夫婦のみの世帯です。施設外居住の高齢者世帯で、香港政府の賃貸公団に住む高齢者は三十六・七％、補助金付一般マンションは十九・二％、そして一般マンションに住む世帯は四十二・八％、残りは香港外定住者となります。有職高齢者の収入平均は月一二・二五〇香港ドル、無職高齢者は月五・七八〇香港ドルで、全体平均は月六・〇二〇香港ドルとなり、無職世帯収入が二〇〇六年に比べ八十・六％増加しました。理由として、政府が二〇一三年より高齢者手当を認めた事、また補助金制度を増やした事などが挙げられます。

しかしよく考えますと、月約六、〇〇〇香港ドルの収入は十分とは言えません。香港の物価指数は二〇一八年エコノミスト誌によれば世界第四位で、実は二〇一五年から東京を上回っています。その一方、香港全体では約七分の一が貧困とされる月四、〇〇〇香港ドル以下の収入世帯です。この格差社会の中で、実際にどんな対策がとられているのかご紹介しましょう。

二〇一八年度予算で、政府の高齢者手当は、資産四七・五〇〇香港ドル以下の世帯対象に、月三、四八五香港ドル支給されます。資産三三・四〇〇香港ドル以下の世帯は月二、六〇〇香港ドルとなります。香港には公的な年金制度がなく（代替である「強制積立金」制度は、二〇〇〇年導入のためまだそれほど対象者もない）、それ以上資産がある高齢者世帯は経済的に自立しなければなりません。

そこで自立支援のために、政府主導で六十五歳以上の申請者に「長者カード」を発行してい

ます。その「長者カード」保持者に対し、公共事業や医療機関を含む多くのスーパーや個人商店が割引や優待価格を設定しているため、高齢者は生活費を抑えることが出来ます。現在九割以上の高齢者にカードが交付されています。身近な優待を挙げますと、香港のほとんどの公共交通機関の運賃がすべて一律二香港ドルです。地下鉄の初乗りは四・五香港ドルなので、高齢者の負担は半額以下になります。光熱費や固定電話代、銀行でも手数料などの優待があります。しかしそれでも香港には公的医療保険制度がないため、医療費が高額になりがちです。そこで香港政府は六十五歳以上の高齢者に毎年医療クーポン（二〇一七年から二、〇〇〇香港ドル相当）を交付しています。このクーポンは一年に四、〇〇〇香港ドルまで使用できるので、単純計算で二年間分のクーポンを貯めて一度に利用可能です。たとえば街の個人医院に風邪で受診した場合、香港は自由診療のみなのでかなりの価格差がありますが、個人的な体験では薬を含め大体三〇〇〜五〇〇香港ドルだと思っています。私立病院の受診代は薬含め約一、〇〇〇〜一、五〇〇香港ドルでしょう。したがって二、



長者カード提携店の表示

〇〇〇香港ドルはかかりつけ医の受診四回分くらいカバーできる計算になります。それに政府系公営医院は（予約が一杯で診察は現実的ではないのですが）、受診料が五十香港ドルと格安です。

加えて、ボランティア活動が社会福祉の一角を担っています。社会的企業の一つ、緊急時の高齢者支援サービスを提供する『長者安居協會（高齢者宅安全協會）』は、二十四時間体制で高齢者宅からの緊急連絡や地元の高齢者向サービスや情報に関する質問、短期のカウンセリングなどを専用電話にて行っています。高齢者世帯は協会だけにつながる専用電話を購入またはレンタルし、月額使用料（二〇一八年は一九八香港ドル）を支払います。使用料と募金だけで人件費が賄えるのかと思いますが、実は二十四時間対応スタッフも主にボランティアに支えられているのです。この協会は訪問サービスもあり、適宜ボランティアがお土産持参で契約家庭を訪問し、電話の使用説明や実際の生活状態を確認して、協会に報告もします。サービス利用者は二〇一八年四月のみで延べ九、九五三人でした。

次に、食のパラダイス香港らしく、社会的企業の運営するレストランが、オープンライズ（日本のぐるなびのようなサイト）に少なくとも六十八店舗登録されています。その中で有名な従業員はすべて高齢者の『銀杏館』です。一等地にあるベジタリアンレストランで、ある福祉団体いわく、高齢者が働くことでうつ状態を回避し、尊厳を保ちながら金銭を収受できるとの事です。有職高齢者世帯の収入が無職高齢者と比べ格段に高い現実を鑑みると、高齢者だけを雇用するレストラン経営のアイディアは悪くありません。顧客も食事を楽しみながら、支払は高齢者雇用に使われるという意味で自然と



フードエンジェルの食材寄付ポスター

ボランティアに参加の形となり、高齢者従業員も勤労の満足を得、なおかつ経営も成り立つという三方すべてが丸く収まるというビジネスモデルです。母体は楽天集団という私設老人ホームやリハビリセンターを運営する企業で、現在平均年齢六十九歳のレストランスタッフ二〇〇名を雇用しています。銀香館では、勤務時間を通常四〜六時間とし、最長でも八時間に納め、二か月のトレーニング期間を設け、店内のフロントスタッフには滑らない特殊な靴を提供し、コンピューター画面やメニューの文字を最大サイズにするなど現場で工夫をしています。(ちなみに、意外なことに香港デイズニーでは年齢を全く考慮せず雇用するため全従業員七、五〇〇名中一二〇名が六十歳以上で、長時間立ちっぱなしの職場以外すべての職種に高齢者は採用されているそうです)。

古くからのボランティア団体に定義づけられながら、今香港で最も注目されているのが『フードエンジェル』です。香港では毎日約三、三〇〇トンの食材が廃棄され、内三分の一が飲食業界から、という統計もあります。そこで独居老人や貧困世帯に、余剰食材を使ってお

弁当を調理し、配達または地元の公民館で提供するボランティアをしています。一般募金三十一・三%、ジョッキークラブ基金からの援助二十%、香港公益金(他のボランティア団体へ寄付を行うボランティア団体)から十二・二%など、経費一〇〇%を募金と寄付で賄い、なおかつ調理用食材もすべてスーパーや市場、レストランなどからの寄付を利用しています。二〇一一年設立の新しい団体ですが、食物を大切にし、無駄を省き、飢餓をなくそう、という時流に沿った目的で、当初お弁当一日三十食を地元公民館で高齢者に無料提供していたのが、今や四、〇〇〇kgの食材を使い六、〇〇〇食を調理するまでになりました。調理員や配膳、配達などすべてボランティアが行い、用具はもちろんボランティアの休憩時に配られる飲料水まで寄付されたものです。可愛いキャラクターデザインを採用し、ITツールを上手く使っており、例えばボランティア志望者はウェブサイト上のクリックで簡単に参加登録できるのです。更に、賛否両論ありますが、香港も他の外国と同様、学生のボランティア活動は内申書に明記され、受験に大きな影響を与えるようです。そのため、小学生が両親と一緒に募金活動をしたり、学生が高齢者世帯を訪問したりすることは珍しくありません。社会人となっても、会社がボランティアグループを組織し活動を主催したりするので、日本と比べると気軽に参加できる土壌があり、それなりにボランティアの担い手も確保できると言えます。香港では細やかなサービスや活動は、ボランティアに支えられていると言えます。厳しいことを言えば、長い間のレッセフェール(自由放任主義)により、元々の福祉行政対策が不十分だからなのでしょうが、それを逆手にとって草の根レベルでこ

いった互助組織が発展してきているのは、少々羨ましい気もします。

以上簡単ですが香港の高齢者福祉対策について述べさせていただきました。なぜ私自身が社会貢献活動をしたと思ったのかは、やはり東邦の「自然・生命・人間」教育が原点であろうと思います。どんな自然や環境下でも生命ある生き物や人間を見続けたいと思い、海外移住をしましたが大きな不安の中、それでも自分を信じたのは、東邦生活で得た知識や経験のおかげでした。

最後に、『理想一起追走』は『みんなで一緒に理想を追い求めよう』という意味です。RTHKというテレビ番組制作会社のドキュメンタリー『獅子山下』のテーマ曲の一節です。この同窓会会報にぴったりの思い表題としましたが、いかがでしょうか。



老人山にて



東邦高校 1988 年卒業アルバムより

東邦高校 1988 年卒業 — 30 周年記念同窓会開催

日 時／平成 30 年 11 月 10 日（土曜日）

受付開始／17:30 より

同 窓 会／〔一次会〕18:00～20:00

場 所／〔一次会〕芝パークホテル

東京都港区芝公園 1-5-10

TEL. 03-3433-4141

<https://www.shibaparkhotel.com/>

〔二次会〕個室居酒屋 より鶏み鶏 浜松町・大門口

東京都港区芝大門 1-4-4 ノア芝大門ビル B1

TEL. 03-6459-0022

<https://tabelog.com/tokyo/A1314/A131401/13185829/>

会 費／1 万円

（会費は二次会費を含みます、二次会場は歩いて数分のお店です。自由参加なので奮ってご参加ください）

出席可能な方は大重に Facebook 内（東邦大学附属東邦高等学校 1988）、もしくはメールで skyblue.woodgreen.bm@gmail.com へ、7 月 20 日までにご連絡をお願いします。
皆さんのご参加をお待ちしております！

みんなの写真
大、大、
大募集！

昔だけでなく今現在の写真も募集します！当日は会場でスライドを流します。
在学時の写真や卒業後 30 年間でいつの時期の写真でも、
個人旅行の時の写真でも OK！
メールにて大重に直接送って頂けるとありがたいです。

大重要人、藤村智子、松峰啓真

学 校 の 近 況

一、在籍数（平成三十年五月一日現在）

《中 学》

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	計
男子	186 名	184 名	174 名	544 名
女子	157 名	138 名	132 名	427 名
合計	343 名	322 名	306 名	971 名
学級数	9	8	8	25

《高 校》

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	計
男子	160 名	200 名	228 名	588 名
女子	125 名	120 名	134 名	379 名
合計	285 名	320 名	362 名	967 名
学級数	8	9	10	27

二、平成三十年度 主な学校行事の日程

体育祭（中学）十月六日（土）

九時から一般公開します。

競技大会（高校）六月六日（水）・六月七日（木）

文化祭「銀杏祭」（中高合同）

九月十五日（土）・九月十六日（日）

一般公開は両日とも九時からです。

入学試験

中学校

推薦……………平成三十年十二月一日
前期……………平成三十一年一月二十一日
後期……………平成三十一年二月三日
帰国生選抜……………平成三十一年一月十八日

水泳部

三、部活動の活躍

（平成二十九年四月～三十年三月）

※県大会レベル以上を掲載。個人競技については上位入賞者および関東大会以上の出場者は氏名を記載。

中 学

●ハンドボール部

平成29年度第35回浮谷杯千葉県中学校春季ハンドボール大会
男子…3位 女子…3位
平成29年度第71回千葉県中学校総合体育大会ハンドボールの部
男子…ベスト8 女子…ベスト8
平成29年度第35回千葉県中学校新人ハンドボール大会
男子…ベスト16 女子…ベスト16
読売旗争奪中学生ハンドボール大会（関東大会）男子出場
第36回千葉県中学生テニス選手権大会
男子ダブルス…ベスト16

●硬式テニス部

平成29年度千葉県中学校総合体育大会

学校対抗の部 男子…ベスト8
平成29年度千葉県中学校新人体育大会

学校対抗の部

男子…ベスト4 女子…ベスト8
平成29年度南関東私立中学校テニス大会

学校対抗の部

男子…5位

2E曾根原颯・2G白水希理・
2D大島秀生・2E鈴木大翔・
2B池谷光生・2B鮫島巨雅・
1B沼田光晟

平成29年度千葉県中学校水泳競技大会 兼 第57回全国中学校水泳競技大会予選会 兼 第41回関東中学校水泳競技大会予選会
男子総合3位

男子400mフリーリレー

第3位 3分52秒15 全国標準記録突破・全国出場権獲得

（3B永井純斗・3G岩佐大輝・

3B大崎尚人・2E山口将太郎）

男子400mメドレーリレー

第3位 4分15秒42 全国標準記録突破・全国出場権獲得

（3B大崎尚人・3G岩佐大輝・

2E山口将太郎・3B永井純斗）

男子100m自由形

第5位 55秒78 3B永井純斗

男子200m自由形

第1位 1分59秒17 全国標準記録突破・全国出場権獲得

3B永井純斗

男子100m平泳ぎ

第8位 1分10秒24

3G岩佐大輝

男子200m平泳ぎ

第6位 2分30秒48

3G岩佐大輝

女子400mメドレーリレー

第14位 5分03秒83 関東出場権獲得

(3 B 荒井彩花・2 D 日高真央・
2 C 鈴木ひかり・1 F 伊藤颯花)
第 71 回千葉県中学校総合体育大会
水泳競技大会

男子 400 m 自由形
第 3 位 4 分 16 秒 64

3 B 永井純斗

男子 800 m 自由形
第 2 位 8 分 53 秒 80

3 G 永井純斗

男子 200 m 背泳ぎ
第 7 位 2 分 22 秒 23

2 E 山口将太郎

男子 100 m 平泳ぎ
第 7 位 1 分 09 秒 89

3 G 岩佐大輝

男子 200 m 平泳ぎ
第 4 位 2 分 29 秒 46

3 G 岩佐大輝

男子 100 m バタフライ
第 8 位 1 分 00 秒 42

2 E 山口将太郎

第 41 回関東中学校水泳競技大会
女子 400 m メドレーリレー

第 24 位 4 分 59 秒 63

(3 B 荒井彩花・2 D 日高真央・
2 C 鈴木ひかり・3 C 美甘陽向)

第 57 回全国中学校水泳競技大会
男子 400 m フリーリレー

第 17 位 3 分 48 秒 06

(3 B 永井純斗・2 E 山口将太郎・
3 G 岩佐大輝・3 B 大崎尚人)

男子 400 m メドレーリレー
第 16 位 4 分 13 秒 07

(3 B 大崎尚人・3 G 岩佐大輝・
2 E 山口将太郎・3 B 永井純斗)

男子 200 m 自由形
第 37 位 1 分 59 秒 58

3 B 永井純斗

平成 29 年度 千葉県中学校新人体育大会
水泳競技大会

男子総合 5 位

男子 200 m フリーリレー

高 校

● ハンドボール部

平成 29 年度関東高等学校体育大会
ハンドボール競技千葉県予選会

男子・ベスト 16

平成 29 年度千葉県高校総合体育大会
ハンドボール競技

男子・ベスト 8

第 35 回千葉県高校ジュニアハンド
ボール選手権大会

男子・ベスト 16

平成 29 年度新人高等学校体育大会
ハンドボール千葉県予選会

男子・ベスト 16 女子・ベスト
16 (和洋国府台女子高校と合同)

第 31 回関東高等学校テニス大会千
葉県予選会

男子団体出場

女子団体・ベスト 16

第 70 回千葉県高等学校総合体育大会
男子団体・ベスト 32

女子団体出場

第 49 回千葉県高等学校新人テニス
大会

男子団体・ベスト 16

女子団体・ベスト 16

● 陸上競技部

男子シングルス・ダブルス出場
第 70 回千葉県私立高等学校テニス
大会

男子団体・ベスト 8

平成 29 年度関東高等学校選抜新人
陸上競技大会

男子 5000 m

第 5 位 15 分 03 秒 92

岩佐一楽 (高校 2 C)

平成 29 年度千葉県高校新人陸上競
技大会

男子 1500 m

第 9 位 4 分 01 秒 57

岩佐一楽 (高校 2 C)

男子 5000 m

第 9 位 15 分 12 秒 85

岩佐一楽 (高校 2 C)

第 72 回千葉県高等学校駅伝競走大会
男子 20 位

平成 29 年度千葉県高校総体陸上競
技大会 出場

第 60 回関東高等学校体育大会千葉
県予選サッカーの部 ベスト 32

第 70 回千葉県高等学校総合体育大
会千葉県予選サッカーの部 出場

第 96 回全国高校サッカー選手権大
会千葉県予選 ベスト 32

平成 29 年度千葉県高等学校新人
サッカー大会 ベスト 32

● サッカー部

第 71 回 関東高等学校体育大会
千葉県予選会

男子・1 回戦

第 69 回 千葉県高等学校総合体育
大会

男子・ベスト 32

第 71 回 関東高等学校体育大会
千葉県予選会

男子・1 回戦

第 69 回 千葉県高等学校総合体育
大会

男子・ベスト 32

第 71 回 関東高等学校体育大会
千葉県予選会

男子・1 回戦

第 69 回 千葉県高等学校総合体育
大会

男子・ベスト 32

第 71 回 関東高等学校体育大会
千葉県予選会

男子・1 回戦

第 69 回 千葉県高等学校総合体育
大会

男子・ベスト 32

第 71 回 関東高等学校体育大会
千葉県予選会

男子・1 回戦

第 69 回 千葉県高等学校総合体育
大会

男子・ベスト 32

第 71 回 関東高等学校体育大会
千葉県予選会

男子・1 回戦

第 69 回 千葉県高等学校総合体育
大会

男子・ベスト 32

第 71 回 関東高等学校体育大会
千葉県予選会

男子・1 回戦

第 69 回 千葉県高等学校総合体育
大会

国際交流室より

同窓会のみならずには平素よりアワードを通じ、在校生の国際交流活動にご支援いただき誠にありがとうございます。平成二十九年度の国際交流活動をご報告させていただきます。

海外研修はオーストラリア、シンガポールで実施いたしました。オーストラリア研修は平成二十九年度より実施学年を高校一年生から中学三年生へ移行し、経過措置として七月に高校一年生、八月に中学三年生が訪豪し、姉妹校の St Peters Lutheran College への訪問、習志野市とラムサール条約にて湿地提携をしている Bonndall 湿地での学習など、交流・学習要素も取り入れた研修を実施いたしました。シンガポールは二回目の実施となり、現地インターナショナルスクールに通い、すべて英語で授業を受けるイマージョンプログラムは参加した生徒からも好評を博しております。午後のアクティビティーも充実しており、多文化社会のシンガポールならではの研修が展開できました。

姉妹校交流として、九月に St Peters の日本語を学ぶ高校生九名と先生二名が来校し、日本の学校体験をしました。文化祭の時期に合わせて本校に来校しましたので、通常の授業の雰囲気とは異なった様子に、非常に喜びを感じたようでした。本校生徒のご家庭でホームステイの受け入れをご協力いただき、こちらもまた姉妹校の生徒には大切な思い出になったと引率の先生から報告を受けております。三月には中学サッカー部がブリスベン

を訪問し、St Peters や地元の名門学校と交流試合を持ちました。国際交流室はこのサポートをいたしました。

平成三十年度からは新しい企画が二つ加わります。一つめは平成二十九年度夏にモニター実施をしたハーバード大学の学生を招いた本校で行うアクティブラーニングプログラム「SHICE」の本実施です。対象は中学三年生以上になります。ハーバード大生の質の高い人間性に触れることは本校生徒の国際理解の一助になるのではないかと思います。二つめはオーストラリア研修サイエンス



シンガポール研修

コースです。対象は高校生です。自然科学系の研修を中心とし、クイーンズランド大学海洋センターの協力や世界遺産ゴンドワナ多雨林での学習など、通常の高校生ではとうてい体験できない高大連携の学びをオーストラリアで実施いたします。

スペース的に書ききれない事が多数ございますが、国際交流室は在校生の国際理解教育のサポートに向け、さまざまな取り組みを実施いたしております。今後とも同窓会のみならずのご支援ご協力を賜りますと幸いです。

(国際交流室長 上野 純也)



オーストラリア研修

アウオード贈呈部活からの報告

◆「初志貫徹」

中学校水泳部 三年B組 大崎 尚人

一年前の全国中学の予選を兼ねた試合において、先輩達はフリーリレーとメドレーリレーで全国大会出場を決めた。そのレースで僕は、「来年は自分も全国大会へ出場したい。」という熱い思いが心の奥深くで静かに燃えていた。

それから僕は以前と違い、一回一回の練習をより大事に取り組むよう心掛けた。僕はフォームに課題があり、直すことがやたらと多かったが、少しずつでも確実に直していくように心がけた。そして何よりも意識が変わった。競い合う練習メニューの時は、仲の良い友達もこの時ばかりは良きライバルになる。お互いにタイムを意識し合い、勝ったときはとても嬉しく、負けた時はとてつもなく悔しかった。今思えば、こうして切磋琢磨した日々のおかげで、今の自分があるのだ、かけがえない日々だったのだと思う。

そして迎えた試合当日。この日のために一杯頑張ってきたつもりだったが、自分の中で不安が膨らみ、レースまでの時間をもっと伸ばして欲しいと思った。しかし、そのようなことは出来るはずもなく、一日目のフリーリレーの時間となった。周りは強豪校ばかりで緊張する中、第三泳者の僕は、ただひたすら前へ前へと泳いだ。第四泳者がタッチしたその瞬間、すぐに電光掲示板を見た。結果は全国標準記録を突破していた。予選で全国大会出場を決められて、うれしさと安堵でいっぱいだった。

残すはメドレーリレー。大会前にメドレーリ

レーはフリーリレーよりも全国大会への出場が有力だとされていたので、フリーリレーが全国標準記録を突破したのだから、当然、メドレーリレーもという気持ちは大きかった。しかし、全国への道はそんなに甘くはなかった。結果は全国標準記録突破まであと〇・四七秒。僕のタイムは一番足を引っ張っていて、ベストタイムよりも三、四秒も遅かった。先生方や先輩達のアドバイスを聞き、決勝へ向けて泳ぎを直すことにした。

そして迎えたメドレーリレー決勝。チャンスは一度きり。とても緊張していたが、チームメイトや両親の声援を受け、戦っているのは僕だけじゃないと思った。この日まで支えて下さった人達や、一緒に頑張ってきた仲間と共に戦っているのだと思った時、ガチガチだった緊張がほどよい刺激に変わり、絶対に全国大会へいくぞという覚悟が決まった。

場内が静まりかえり、スタートの合図とともに運命のレースが始まった。そして、ラスト十五メートルで、僕は最後の力を振り絞って、第二泳者につないだ。そして激戦の中、第四泳者がタッチをしたその瞬間に掲示板を見た。結果は第三位。予選よりも二秒ほどタイムを上げ、全国標準記録を突破していた。レース後の表彰式では、僕は仲間と共に誇らしく表彰台上がった。スタンドの歓声が聞こえた時、ふと涙がこぼれた。嬉し涙か、安堵の涙か、予選で実力を発揮できなかった悔し涙か、自分でもよく分からない感情に襲われた。三番目の高さの表彰台ではあったものの、そこから見える景色は輝いていた。

それから全国大会までの三週間、厳しい練習を重ねて、最終調整を行い、満を持して鹿児島へ飛び立った。鹿児島は夏はとても暑かった。会場は多くの人で溢れていて、有名な選手もいたが、以前の自分のように怯むことは決して無

かった。一流の選手達と同じプールで泳げることに興奮していた。

一日目はフリーリレー。いつもの泳ぎ慣れたプールではなかったが、やるべきことは同じで、全力で悔いの無いように泳ぐことができた。例年よりレベルが高いらしく、結果は十七位だった。決勝も視野に入れていた僕達にとっては素直に喜べる結果ではなかったが、三週間の練習で四秒も記録が上がったことは嬉しかった。

二日目のメドレーリレーは十六位だった。この順位も悔いの残る結果ではあったが、タイムは満足している。

こうして僕の暑い夏は幕を閉じた。この夏、僕はこれまでの人生で最大の貴重な経験をさせてもらった。そして人間としても、一回りも二回りも成長できたと思う。高校からの新しい目標もできた。しかし、それは決して僕だけの力ではなく、応援して下さいました先生方や仲間達、そして、両親のおかげだ。それをこの夏に改めて実感できた。この仲間たちと一緒に頑張れたことを誇りに思う。この気持ちを忘れずにこれからも頑張っていきたい。



◆南関東大会を終えて

中学校硬式テニス部 二年 E 組 曾根原 颯

僕たち硬式テニス部は、千葉県中学校新人テニス大会ベスト四進出を果たし、神奈川県本牧市民公園テニスコートで開催された南関東私立中学校テニス大会（学校対抗の部）に千葉県の三番手として出場しました。結果は一回戦で神奈川県二位の桐光学園中に二―で敗退し、順位戦にまわり五位決定戦で千葉県一位の渋谷幕張中に二―で勝利し五位という結果でした。

今、南関東大会の試合を振り返ると、自分が必要ことを試合で実践できなかった悔しさがこみ上げてきます。一回戦、僕はダブルス一で出場しました。この試合の勝敗によって全国大会の切符が握めるかどうかを大きく左右するという重要な試合でした。試合序盤は接戦を繰り返すことができたのですが、第五ゲームを取られてから流れが桐光ペアに傾き、挽回することができず負けてしまいました。試合が終わってみてまだまだダブルスの戦い方がわかっていなかったと実感しました。それは自分たちと対戦相手を比べてみて、前衛の動きが違ったからです。ボーチに出るタイミングやベースのポジションなど、自分とは違い常に攻撃的であると感じました。また、試合中の気持ちの持ち方にも違いがありました。ミスしたことを次のプレーにも引きずってしまうことが多く、精神的にも負けてしまい、それが結果にも表れてしまいました。自分では常に同じプレーを心がけていたつもりでも、弱気な心から精神的な弱さが出てしまいミスにつながり、また弱気になってしまい気持ちを切り替えることができず試合が終わってしまったことが最大の敗因であると思います。弱気になった自分をベンチで先生がフォローしてくださり、自分でも声を出して切

り替えようとしたのですが試合の流れを変えることができませんでした。そんな中、特に今でも鮮明に覚えているプレーがあります。それは前衛の自分のサイドをストロークできれいに抜かれてしまったポイントでした。たった一回、自分のサイドを抜かれただけで相手の選手を「上手いな」と感じてしまい、どんどん消極的になっていく自分を変えることができませんでした。この経験を通して、常日頃から先生が言っていた「気持ちで勝つ」ことが試合中一番大切なことであると改めてわかった気がします。

また、今回の大会はダブルスの戦い方など様々なことを学べるとても良い機会になりました。そして、この大会で反省したことを次の大会で活かすためにしっかりと体力をつけて、弱気になった自分を立ち直らせる方法を見つけたと思います。いかなる状況でも弱気な自分には打ち勝つ術を身につけたいです。そして三年生になる来年には、万全の状態での夏の総合体育大会を迎え、関東大会に出場できるように、部員みんなで練習していきたいと思っています。



◆平成 29 年度 高校スキー部活動報告

二年 D 組 大日方 慧

東邦高校スキー部では、アルペン競技とクロスカントリー競技の二種目を主に行っています。アルペン競技はゲレンデにポールを張った斜面、クロスカントリー競技は起伏のある長距離コースで行い、それぞれの滑走タイムを競います。自分はアルペン競技を行っているのですが、それについて書きたいと思っています。

自分がアルペン競技を始めたのは中二からでした。中三の頃には怪我で思うような結果を残せず悔しい思いをしました。そして高一でやると国民体育大会、高校関東大会に出場することが出来ました。

◇高校関東大会

自分にとって高校生最初の上位大会でした。東京、埼玉、群馬、神奈川県、山梨、茨城、栃木、千葉から一五〇人程度の選手が参加し、規模の大きな大会でした。大会コースはインターハイなども開催されているほど、急斜面で立派なコースでした。

アルペン競技はGSとSLの二種目に分かれており、GSはポールとポールのインターバルが長く、上手な人で時速七十キロもでる高速系種目です。一方、SLはポールとポールのインターバルが短い技術系種目です。

関東大会ではGS 六十四位、SLはインフルエンザのために棄権となりました。今シーズンは両種目三十位以内を目指して頑張りたいと思います。

◇国民体育大会

この大会は自分にとって最も刺激的な大会でした。しかも、今年は平昌オリンピックが開催されたことで、オリンピックに出場した日本代表選手たちが参加していました。かつ



今シーズンは自分にとって中高五年間の集大成として悔いの残らない滑りをしたいと思っています。また、スキーが出来る環境を作ってくれている、支援してくれている両親、顧問、大会関係者などの人達に対する感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思います。

では、テレビの前でしか見る事ができなかった憧れの選手たちの滑りを目の当たりにして、圧倒されました。

少年男子は大会期間の最終日に行われましたが、残念ながら天候が荒れ、スキー場は深い霧に包まれました。そのためスタート地点が大幅に下がりコースが短くなりました。しかし、このイレギュラーな状況下においてトップ選手たちの順位は順当通りで、実力のある選手はきちんとした結果を残していました。自分もそんな選手になりたいと、この大会で改めて思いました。

あまり納得のいく滑りが出来なかったもので、今シーズンにリベンジしたいと思っています。

◆全国高校囲碁大会団体戦・個人戦に出場して

藤田麻奈未

平成三十年三月十七・十八日、大阪府の大阪商業大学で開催された「第十二回全国高等学校囲碁選抜大会（団体戦・個人戦）」に高三女子有志三名を引率してきました。

全国高校囲碁大会は年に三つあり、この大会は秋季大会に一・二年生を対象に各都道府県の予選を通過すると、地区大会に進み、さらに上位に入ると全国大会への出場権を得ることができるとなっています。

団体戦は、県予選を勝ち上がった十六校の中で四局の対局をして順位を争います。一局目は松商学園高等学校（長野）、二局目は上宮高等学校（大阪）に勝利をしました。全国大会で上位に入るには、三局目の勝敗が肝心になってきます。三局目は全国大会出場数が多く上位に入賞する強豪校の洛南高等学校（京都）でした。組み合わせが発表になった途端、一瞬、生徒たちは曇った表情をしましたが、今までの予選大会と違って、勝ちにいくという勢いがありました。

残念ながら対局は三人とも負けてしまいました。残念ながら一回頑張れば入賞はできるのではないかと一希望を胸に、四局目の秋田県立横手高等学校（秋田）の対局に臨みました。他の対局は終わっているなか、最後まで打ち続けていました。対局会場内は顧問や見学者は柵から入ってはいけないため形勢がわかりませんでした。対局が終わった瞬間、どこか安心した表情を見て、勝つことができたのだと確信できました。チームの結果は三勝一敗で、スイス方式により四位に入賞することができました。個人戦も入賞はしましたが十分健闘しました。

高校一年時のときは、千葉県予選を通過できず、生徒たちはとても悔しい思いをしました。

そのときの気持ちがばねとなって、今があるのではないかと思います。高校生になってからは男女別の団体戦ですが、小学校・中学校では男女混合の団体戦を組むことができ、東邦中学に入学して一年時から団体戦に男子一人、女子二人で参加をしてきました。中学三年時には「第十二回文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦 全国大会」に出場してきました。東邦中高校団体戦の最初の第一歩でした。中学時代から三人、高校から一人あわせて四人とも同じ学年で、六年間大会に出場をしてきました。高校三年生で受験モードに入っているのですが、最後の全国大会（文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会、全国高等学校総合文化祭）でも活躍してくれると期待をしています。

日頃応援をしてくださっている先生方、保護者の皆様、生徒たちを指導・応援をして下さっている方々、そして全国大会参加等に際して格別なご支援をいただきました同窓会執行部の皆様に厚く御礼申し上げます。全国大会出場のご報告とさせていただきます。（数学担当教諭）



2018 東邦大学付属東邦中学校・高等学校 学校見学会・学校説明会・入試説明会日程

■学校見学会・説明会（どなたでも参加できます）

日程			予約開始日
2018 年	4 月	21 日・28 日	3 月 1 日
	5 月	19 日・26 日	4 月 1 日
	6 月	2 日・16 日・30 日	5 月 1 日
	7 月	21 日・28 日	6 月 1 日
	8 月	4 日・25 日	7 月 1 日
	9 月	22 日	8 月 1 日
	10 月	13 日・20 日・27 日	9 月 1 日
	11 月	10 日・17 日	10 月 1 日

夏休みに授業・部活動の「体験見学会」を追加で実施します。

10:00 集合
 10:00～11:40 「学校見学ツアー」
 11:00～12:00 「学校説明会」

■プレミアムフライデー学校説明会 （平成 31 年度 入試用：一般生・帰国生・編入生）

日程		予約開始日
6 月	29 日	5 月 1 日
7 月	27 日	6 月 1 日
8 月	31 日	7 月 1 日
9 月	28 日	8 月 1 日

17:30 集合
 17:30～17:55 「プレミアム・イベント」
 18:10～19:10 「学校説明会」
 ※「プレミアム・イベント」の内容は後日発表します。
 ※一般生、帰国生の両方に対応します。
 ※「学校見学」はありません。また、カフェテリアの営業はありません。

■入試説明会

・中学校入試説明会

10 月 23 日（火）14:00～15:10
 10 月 24 日（水）14:00～15:10
 予約受付開始 9 月 1 日

・高校入試説明会（帰国生入試）

10 月 27 日（土）14:00～15:10
 予約受付開始 9 月 1 日



2018 年 银杏祭（文化祭）※ 予約不要

9 月 15 日（土）9 月 16 日（日）

- ・広報部主催「入試相談会」
- ・生徒会主催「東邦ツアーズ」

HP から全てのお申し込みができます
 TEL 047-472-8191（代表）
<http://www.tohojh.toho-u.ac.jp>

平成三十年度

大学入試結果報告

進路指導部 山崎 宣彦

大学入試センター試験

平成三十年度の大学入試センター試験（以下、センター試験）は、一月十三日・十四日の両日に、全国六九五の会場で実施された。センター試験は二〇二〇年一月の実施を最後に廃止され、二〇二一年からは「大学入学共通テスト（以下、共通テスト）」が導入される。これは、学力の三要素である「思考力・判断力・表現力」を評価する目的で新たに実施されるものである。今年のセンター試験の問題では、全体として大きな変化はなかったものの、この入試改革の方向性を踏まえた新しい形式の出題がみられた。例えば国語「現代文」の第一問では、本文に付された図（写真）に関する生徒の話し合いが紹介され、そのうちひとりの会話が空欄補充問題として出題された。また、英語「筆記」では、第二問の対話の流れを読み取る問題や、第三問の話し合いの発言内容をまとめる問題が出題され、より実践的なコミュニケーション能力を問う傾向が強まった。

本校の出願者数は、在籍三五八名中三五四名となり、ほぼ例年並みとなった。受験会場は、昨年度と同様に、受験型別となり、千葉工業大学（津田沼キャンパス）・東邦大学（習志野キャンパス）・日本大学生産工学部（津田沼キャンパス）の三か所となった。

各科目の概況であるが、化学・日本史B・倫理政経は、全国平均点の上昇以上の結果となり、国語・英語筆記は、全国平均点の推移とほぼ同様であった。一方、数学・英語リスニング・物理は昨年度より平均点が下がり、理系受験者にとっては厳しい結果となった。

全体的に、上位層の得点の伸び悩みが目立ち、九〇〇点集計では、八〇〇点以上のものが六名（文系一名、理系二五名）となった。数学・英語での上位層の人数が減ったことが一因と考えられる。

国公立大学志願状況

国公立大学の志願者総数は、前年比九九％となり、七年連続の減少となった。今年も文系人気が続いており「文高理低」傾向であるが、大学生の就職状況が好調で文系選択の受験生が増加しており、理系の募集定員が多い国公立大学で志願者減少につながったようである。

学部系統別では差が見られ、文系では「社会・国際」「経済・経

営・商」で志願者増、理系では「理」「工」で前年並み、「農」「医」「薬」で志願者減となっている。

難関国公立大では文系、理系とも志願者数はほぼ変わらず、東京大、東京工業大ではわずかに増加している。これは、センター試験の九〇〇点満点の平均点が前年度とほとんど変わらず、難関大志願者が確実に得点できており、出願時の変更が起きにくかったことが要因と考えられる。一方、医学部医学科は、前期が前年比九四％で四年連続減少、後期が前年比九十％で六年連続減少となっている。

私立大学志願状況

私立大学の志願者は、全体で前年比二〇七％と大きく増加し、十二年連続で増加となった。方式別に見ても一般・センター方式とも志願者増となった。その要因として、私立大では、一度の出願で複数学部・学科へ志願できる、複数方式に同時出願すると受験料を割り引くといった一人あたりの志願数が増える仕組みが広がっていることがある。また、文部科学省が二〇一六年度から私立大学の入学定員超過に対して補助金交付の基準を厳しくしており、二〇一八年度はさらに基準が厳しくなっていることから、合格者数を絞り込む動きが継続して厳しい入試になるのではないかと不安から、受験生が併願校数を増やしていることも大きな要因とみられる。さらに、私立大学全体の募集人員は文系の割合が高いため、文系人気も志願者増加につながっている。

学部系統別では、文系で志願者が大きく増加し、「理」「工」でも志願者が増加している。一方、私立大前年比一〇七％という中で、「農」で前年比九五％、「医」で前年比九九％、「薬」で前年比九十二％と志願者が減少している。大学生の就職状況が好調である中、資格系の学部・学科は全般に人気が低くなっている。

本校の入試結果

本年の総合合格者数は、前年度比八九・三％となった。文系では学部系統別ごとの増減はあるが、全体としては昨年とほぼ同じであった。一方、全国的な理系人気はやや落ち着いてきた傾向に向かっているが、本校生徒が進学を希望する理系のレベルはかなり高い水準のままである。学部系統別では農・林・水産・海洋で増、医・歯・薬・看護で昨年並み、理および工で減となり、全体としては昨年よりも減となった。

難関国公立大は東京大、一橋大で増、東京工業大で減であるが、全体としては昨年とほぼ同じであった。また、国公立医学部は、一昨年と同数で過去五年間の中で最高の数となり健闘した。一方、千葉大、旧帝大が減で、国公立大全体では昨年より減となった。

私立大では、早稲田、慶應義塾、上智、東京理科のいずれも減で厳しい結果となった。一方、私立医学部の合格者数は、過去五年間で増え続けており、今年も昨年の数をさらに上回った。

【表 1】過去 3 カ年間のセンター試験平均点

年度		国語	数学		外国語		理科						地理歴史			公民		
			数学ⅠA	数学ⅡB	英語筆記	リスニング	物理基礎	化学基礎	生物基礎	物理	化学	生物	世界史B	日本史B	地理B	倫理	政治経済	倫理・政経
28	本校	156.3	72.4	63.3	146.9	36.1	38.5	35.5	33.4	75.0	66.1	74.0	75.7	75.0	65.2	66.2	67.0	59.2
	全国	129.4	55.3	47.9	112.5	30.8	34.4	26.8	27.6	61.7	54.5	63.0	67.3	65.6	60.1	51.9	60.0	60.5
	差	26.9	17.1	15.4	34.4	5.3	4.1	8.7	5.8	13.3	11.6	11.0	8.4	9.4	5.1	14.3	7.0	-1.3
29	本校	135.1	81.6	72.2	160.5	35.5	38.3	38.0	43.5	75.4	64.9	80.1	79.8	70.3	71.7	72.0	77.6	67.7
	全国	106.9	61.1	52.0	123.7	28.1	29.7	28.6	39.5	62.9	52.0	69.0	65.4	59.3	62.3	54.7	63.0	66.6
	差	28.2	20.5	20.2	36.8	7.4	8.6	9.4	4.0	12.5	12.9	11.1	14.4	11.0	9.4	17.3	14.6	1.1
30	本校	132.0	76.9	67.1	157.2	28.9	37.8	37.7	42.6	72.9	72.6	74.9	78.8	76.1	73.8	77.5	63.4	75.7
	全国	104.7	62.0	51.0	123.8	22.7	31.3	30.4	35.6	62.4	60.6	61.4	68.0	62.2	68.0	67.8	56.4	73.1
	差	27.3	14.9	16.1	33.4	6.2	6.5	7.3	7.0	10.5	12.0	13.5	10.8	13.9	5.8	9.7	7.0	2.6

【表 2 平成 30 年度主な大学合格者数一覧】

私立大学				国公立大学等			
大学名	合格者数	学部名	内訳数	大学名	合格者数	学部名	内訳数
東京薬科	1	薬	1	北海道	3	文	1
東京理科	134	経営	18	弘前	1	工	1
		理	20			総合理系	1
		工	23	東北	4	医	1
		理工	58	山形	1	理	1
		基礎工	9			医	1
東邦	31	薬	6	茨城	1	理	1
		理	2	筑波	8	情報	1
		医	19			理工	3
		薬	9			医	2
日本	45	健康科学	1			生命環境	2
		法	3	宇都宮	1	工	1
		経済	4	群馬	2	理工	1
		商	4			医	1
		文理	4	埼玉	1	教養	1
		工	2	千葉	18	教育	1
		生産工	4			理	3
		理工	13			工	7
		医	4			医	3
		歯	1			看護	2
		松戸歯	3			園芸	2
		薬	3			理	1
日本医科	5	医	5			生活科学	3
日本女子	10	文	5	電気通信	2	情報理工	2
		人間社会	2	東京	6	文科一類	1
法政	52	家政	3			文科三類	1
		看護	4			理科一類	4
		文	10	東京医科歯科	3	医	2
		法	3			歯	1
		経済	3	東京外国語	2	国際社会	2
		経営	4	東京学芸	3	教育	3
		社会	2	東京工業	9	第 1 類	1
		人間環境	1			第 2 類	2
		キャリア	1			第 3 類	2
		デザイン	15			第 4 類	1
		理工	10			第 5 類	2
		スポーツ	1			第 6 類	1
		生命科学	2	東京農工	1	農	1
星薬科	7	薬	7	一橋	6	法	1
明治	70	文	8			経済	3
		法	10			社会	2
		政治経済	9	横浜国立	3	都市科学	3
		経営	5	新潟	1	医	1
		商	9	金沢	2	文系一括	1
		国際日本	2			理系一括	1
		情報コミ	3	山梨	2	医	2
		総合数理	1	信州	5	工	2
		理工	16			医	3
		農	7	岐阜	1	医	1
明治薬科	3	薬	3	静岡	1	理	1
立教	33	文	1	浜松医科	1	医	1
		法	5	名古屋	1	工	1
		経済	3	京都	2	文	1
		経営	5			医	1
		社会	1	大阪	1	工	1
		観光	1			経営	1
		コミュニ	1	神戸	2	医	1
		異文化コ	2			理工	1
		理	14	佐賀	1	理工	1
		文	3	長崎	1	歯	1
早稲田	64	文化構想	3	大分	2	医	2
		法	8			医	1
		政治経済	5	宮崎	1	医	1
		商	5	札幌医科	1	医	1
		社会科学	4	青森公立	1	経営経済	1
		教育	16	福島県立医科	1		1
		人間科学	4	会津	1	コン理工	1
		基幹理工	4	高崎経済	1	経済	1
		創造理工	6	首都大学東京	4	法	1
		先進理工	4			人文社会	2
		スポーツ	2			理	1
麻布	1	獣医	1	岐阜薬科	1	薬	1
聖マリアンナ医科	2	医	2	静岡県立	1	薬	1
金沢医科	1	医	1	岡山県立	1	情報工	1
同志社	2	理工	2	防衛医科	1		1
立命館	7	法	1	国立看護	1		1
		経済	2	防衛	2		2
		理工	4	国公立等合計	119		119
産業医科	1	医	1				
岩手医科	3	医	3				
東北医科薬科	1	医	1				

大学名	合格者数	学部名	内訳数
国際医療福祉	11	医	8
埼玉医科	2	保健医療	1
		成田看護	2
千葉工業	23	医	2
		社会シス	2
		情報科学	4
		工	8
		創造工	3
		先進工	6
東京歯科	4	歯	4
青山学院	17	文	1
		総合文化	1
		法	3
		国際政経	3
		経済	2
		経営	1
		教育人間	4
		理工	2
		文	2
		法	2
学習院	9	経済	1
		理	4
		理	2
		医	1
北里	19	薬	7
		獣医	5
		海洋生命	4
		医	3
杏林	8	保健	5
		文	2
		法	1
慶應義塾	35	総合政策	1
		経済	4
		商	6
		理工	14
		環境情報	1
		薬	5
		看護医療	1
		教養	5
		工	16
		シス理工	3
		デザイン	3
順天堂	12	建築	3
		医	5
		スポーツ	1
		医療看護	6
上智	26	文	4
		外国語	3
		法	5
		経済	2
		総合人間	3
		理工	9
昭和	11	医	8
		歯	1
		薬	2
		法	2
成蹊	10	経済	4
		理工	4
		文	1
		法	5
中央	30	総合政策	1
		経済	2
		商	6
		理工	15
		医	6
東京医科	6	医	6
東京慈恵会医科	4	医	4
東京女子	5	現代教養	5
東京女子医科	3	医	1
		看護	2
		工	2
東京電機	9	理工	2
		未来科学	1
		システム	3
		工二	1
		国際食料	2
東京農業	19	地域環境	13
		応用生物	2
		生命科学	2
その他	134		134
私立合計	904		904

新入会員を迎えて

同窓会はこの三月、三五八名の新しい仲間を迎えました。新会員を代表して、望月友貴君（東京大学理科一類に進学）の希望に燃えたメッセージを紹介します。

春の香りが次第に薄れ、徐々に日差しが強くなり初夏を感じさせる季節が到来しました。私たち六十四期生三五八名は、この春に東邦高校を卒業し、同窓会のメンバーとして新たに加えさせていただくこととなりました。宜しくお願いいたします。

大学に入学して約二カ月が経とうとしています。やっと新しい生活環境や課題に対するレポートの作成にも慣れ、部活やサークルへ参加したり、新たな仲間と共に勉学に励んだり時には遊びに行ったりと、充実した毎日を過ごしています。

さて皆さんは、現在メジャーリーグで活躍しているイチロー選手をご存じでしょうか。今ではプロ野球における通算安打世界記録など、様々な記録を打ち立てていますが、このような結果を出すまでには多大な努力と大きな試練がありました。彼は幼少期から学校帰りに父親と野球の練習に取り組んだり、バッティングセンターに通ったりして、自身の実力を上げていくよう日々努力しており、高校時代には投手として活躍する選手でした。しかし、交通事故で大怪我を負い、投手から野手への転向を余儀なくされてしまったのです。それでも彼は野球をやめることはしませんでした。どうしてイチロー選手は選手生命を脅かしかねない大怪我を負っても野球を続ける道を選んだのでしょうか。

イチロー選手は次のような名言を言ったとされています。「壁というのは、できる人にしかやっつてこない。超えられる可能性がある人にしかやっつてこない。だから、壁がある時はチャンスだと思っ

ている。」この言葉は私の座右の銘であり、受験期に諦めず最後まで努力を貫き通す勇気を与えてくれた言葉でした。

もう一人紹介したい人物がいます。マザー・テレサです。彼女は貧しい人のために働くことをモットーに、孤児の子供に無料で授業をしたり、身寄りのない人を最後まで看病したりと、人のために自分自身を捧げた偉人の中の一人です。生前マザー・テレサは次のようなことを述べていました。「導いてくれる人を待っているはいけません。あなたが人々を導いていくのです。」マザー・テレサはこの言葉の通り、一生をかけて経済的弱者の救済に取り組みしました。私は、このマザー・テレサの生き方に非常に感銘を受けており、他者の役に立てる人になりたいと考えるようになりました。

困難に直面した時に逃げずに立ち向かうこと、そして、他者のために行動しようとする、これらは、非常に難しいことではあります。しかし、社会に出たときに最も求められるものでもあります。私は大学生活を通してこれらの能力を培い、多くの経験値を積み重ねていきたいと思います。

同期会活動への補助について

今回の同窓会総会・懇親会に同期で揃ってご参加いただける方々には以下の補助をいたします。

- ・同期 10 名以上で参加…2 万円補助
- ・同期 20 名以上で参加…3 万円補助

（詳細については同窓会事務局に問い合わせてください。）



◆同窓会総会・懇親会◆

日時 平成三十年七月八日（日）

十二時 総会開会

十三時 懇親会開会

会場 東武ホテルレバント東京

〇三（五六一）五五一（代表）
（蓬来／龍田）